

全国都市農業 フェスティバル 2025



©2011 練馬区ねり丸

全国都市農業フェスティバル2025 記録集



32
自治体!

全国の都市農業が練馬区に集結!
| 75,000人が来場! |



全国都市農業 フェスティバル 2025



全国都市農業フェスティバル2025 記録集

| 主催 | 全国都市農業フェスティバル実行委員会 練馬区



練馬区



全国都市農業フェスティバル2025 記録集

開催日時：令和7年11月15日(土)、16日(日) 10:00~16:00
 会場：都立光が丘公園、区立光が丘体育館 他

目次

開催の趣旨	2
プログラム	
会場MAP	4
買う 全国32自治体が大集合!	6
食べる 食べたいが見つかる、キッチンカー!	8
体験する 親子そろって楽しめるワークショップ	10
話す・学ぶ ゲストと一緒に学べるスペシャルトークライブ	12
意見交換会	28
広報	
区内農業者、参加自治体と連携したPR	48
関係団体等と連携したPR	50
区主催イベント等でのPR	52
巻末資料	
練馬区および参加32自治体の都市農業の取組紹介	54
全国都市農業フェスティバル これまでの歩み	60
委員名簿	62

買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

開催の趣旨

練馬区は、大都市東京の都心近くに位置しながら豊かな自然に恵まれ、住宅地の中で市民生活と融合した生きた農業が営まれています。都市農業は、都市生活に新たな豊かさをもたらすものであり、練馬区の誇りです。この農業と農地を守り、次世代に引き継ぐことが区の重要な責務です。

令和元年度に開催した「世界都市農業サミット」では、参加都市から「練馬の都市農業は言わば我々が目指すべきモデル」とコメントを頂きました。

令和5年度に開催した「全国都市農業フェスティバル」に引き続き、サミットで確認した都市農業の魅力と可能性を参加自治体と一体となって発信し、相互に学び合い、都市農業の発展に繋げていくため、また、都市農業に積極的に取り組む自治体とともに都市農業を更に飛躍させる契機とするために開催しました。

目的

- 都市農業の魅力を発信し、都市農業への理解促進や更なる振興を図る。**
都市農業の魅力を体感できる機会を提供することで、都市農業への理解を促進し、更なる振興につなげる。
- 農業者の営農意欲の向上や、都市農業に対する誇りの醸成を図る。**
全国の都市農業者の取組に着目し、その意義や魅力を共有することで、営農意欲の向上や都市農業に対する誇りの醸成につなげる。
- 全国の自治体・農業者・農業協同組合同士が、知見や経験等を共有し相互に学ぶことで、都市農業の発展に向けた新たな取組につなげる。**
都市農業振興に積極的に取り組む全国の自治体・農業者・農業協同組合が、直接集い参加することにより、自治体間を超えた連携・協力関係を構築する契機とし、新たな取組につなげる。

来場者数

約75,000人

- 体験する(ワークショップ) 計19回開催 延べ400人参加
- 話す・学ぶ(トークライブ) 計2回開催 延べ900人参加

プログラム

全国都市農業フェスティバル2025

都市農業に積極的に取り組む全国32自治体が参加しました



「買う」「食べる」「体験する」「話す・学ぶ」をテーマに、都市農業の魅力を存分に感じられる様々なプログラムを実施しました

買う 普段なかなか手に入らない、全国各地の農産物・特産物が勢ぞろいしました	食べる 練馬産や、全国各地の農産物・特産物を使用したメニューを提供しました	体験する 全国の農業者が講師となり、様々なワークショップを実施しました	話す・学ぶ 全国の農業者とスペシャリストが都市農業の魅力や楽しみ方を語り合いました	意見交換会 参加自治体の農業者・JA職員・行政職員による意見交換会を実施しました
---	---	---	---	--



買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

会場MAP

都立光が丘公園けやき広場をメイン会場とし、「買う」「食べる」「体験する」「話す・学ぶ」をテーマに様々なプログラムを行いました。さらに、フォトスポットの設置やねり丸グリーティングなどを実施しました。JA東京あおば農業祭と共同開催し、充実の2日間となりました。



- …フォトスポット
- …トイレ
- …バリアフリートイレ
- …赤ちゃんスポット
- …ゴミステーション

全国都市農業フェスティバル 2025			
1 坂東市	13 日野市	25 門真市	37 ねりま観光センター
2 川口市	14 国分寺市	26 神戸市	38 社会福祉法人 あかねの会
3 所沢市	15 横浜市	27 奈良市	39 伊勢屋 鈴木商店
4 日高市	16 川崎市	28 長野市	K1 GABIN PANPAN (ガビンパンパン)
5 千葉市	17 横須賀市	29 静岡市	K2 呑と(どんと)
6 木更津市	18 大和市	30 広島市	K3 中華 大勝軒
7 松戸市	19 上田市	31 高知市	K4 Cafe Truck.7
8 世田谷区	20 浜松市	32 福岡市	K5 Bear's PuPu (ベアーズプ)
9 杉並区	21 名古屋市	33 JA東京中央会	K6 加藤農園
10 八王子市	22 知立市	34 国土交通省	K7 ホテルカデンツァ東京
11 立川市	23 京都市	35 農林水産省	K8~K12 全国の自治体の食材を使ったキッチンカー
12 小平市	24 大阪市	36 東京都 (公益財団法人 東京都農林水産振興財団)	

JA東京あおば農業祭
1~2 事業部門PRコーナー
3~8 直売所コーナー
9~14 野菜即売
15~16 果樹即売
17~20 地域内異業種出店
21~23 女性部コーナー
24~26 青壮年部コーナー
27~28 諏訪商会
29~32 花卉販売
33 練馬大根販売



フォトスポット

会場にはフォトスポットを設置、来場者の目を楽しませました。

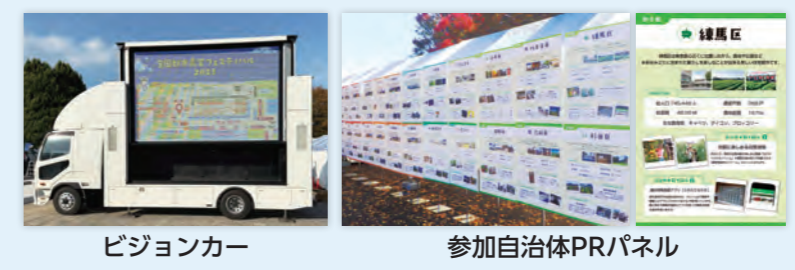


ラッピングトラクター 顔はめパネル



TOSHINOBU立体文字アート 宝船 練馬大根干し

他にもこんなスポットを設置



ビジョンカー 参加自治体PRパネル

ねり丸グリーティング



JA東京あおば農業祭と共同開催



買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

買う



全国32自治体が大集合!

練馬大根など新鮮な練馬産野菜や果物、お花のほか、参加自治体がそれぞれブースを出展し、イチオシの農産物や特産物を販売しました。

坂東市 坂東市野菜セット	川口市 「べにはるか」の焼き芋	所沢市 狭山茶	日高市 日高市産季節の野菜セット
千葉市 生落花生おまさり	木更津市 きさらづ学校給食米®	松戸市 大玉りんか（戸張さんのトマト）	世田谷区 さつまいもジャム
杉並区 旬の杉並野菜各種	八王子市 とれたて新鮮八王子野菜	立川市 岡部ナーセリーの花卉	小平市 キウイフルーツ（東京ゴールド）
日野市 高尾ぶどうジャム	国分寺市 こくベジの秋冬野菜	横浜市 ふぞろいらっきょう	川崎市 香辛子ポップコーン
横須賀市 横須賀市産大根	大和市 ロマネスコ	長野市 リンゴジュース	上田市 信州うえだ産りんご
静岡市 早生みかん	浜松市 三ヶ日みかん	名古屋市長古屋市 梨ジャム	知立市 ローゼルティー
京都市 九条ネギなどの京の伝統野菜や京漬物すくき	大阪市 なにわの伝統野菜	門真市 門真れんこんうどん	神戸市 神戸野菜セット
奈良市 ちぢみ小松菜	広島市 広島菜漬	高知市 ミョウガ	福岡市 元岡とまとケチャップ

当日の様子

普段なかなか手に入らない全国各地の農産物や特産物が勢ぞろいし、多くの来場者で賑わいました。



貴重な練馬大根の販売(約2,500本)には長蛇の列ができるほどの人気があり、2日間とも完売となりました。



買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料



食べたいが見つかる、キッチンカー!

練馬産の農産物をふんだんに使用したメニューのほか、参加自治体の食材を使用したフェスオリジナルメニューを販売しました。

練馬産の農産物を使ったメニュー!



呑と



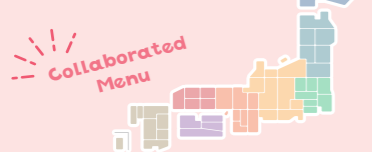
長芋のフライドポテト

Bear's PuPu



タコス

全国の農産物とコラボした、フェスオリジナルメニュー!



オリジナルコッペパン

伊勢屋 鈴木商店



ネリマーレンブルーベリープロイ

中華 大勝軒



アンカケ焼きそば

東京のいちご畑 加藤農園



けずりいちご



オリジナルカレー京野菜のピクルス添え



神戸牛のステーキ

GABIN PANPAN



練馬のお野菜たっぷり豚汁

Cafe Truck.7



練馬区産キャベツを使用したホットドッグ

ホテルカデンツァ東京



練馬産大根と練馬産ドライトマトのパスタ トノロツン



たっぷりキャベツのメンチカツ



さつまいものモンブラン

当日の様子

2日間とも多くの方が訪れ、趣向を凝らした様々なグルメを楽しみました。
13のブースはどこも行列で大盛況でした。



練馬産の農産物を使ったメニューが絶品♪

32の参加自治体以外にも様々な団体のPRブースが出展

- ▶ **JA東京中央会**
野菜を食べる大切さを伝える絵本の読み聞かせや食育ゲームのスタンプラリーを実施
- ▶ **国土交通省**
「農」および「みどり」に関連するイベント実施、チラシ配布、施策についてのパネル展示
- ▶ **農林水産省**
「みどりの食料システム戦略」について、パネル・パンフレット・動画・クイズ等で紹介
- ▶ **東京都(公益財団法人東京都農林水産振興財団)**
「東京農林水産ファンクラブ」「森づくり支援倶楽部」の紹介展示および会員募集を実施
- ▶ **ねりま観光センター**
練馬区の観光冊子を配布したほか、ねり丸ガチャやねり丸グッズを販売
- ▶ **社会福祉法人あかねの会**
練馬区産野菜を加工した、野菜スープなどを販売

体験する



親子そろって楽しめる ワークショップ

全国の農業者が講師となり、都市農業の魅力を体験できるワークショップを実施しました。



藤田先生に聞いてみよう!

NHK「趣味の園芸 やさいの時間」で講師を務める藤田先生から、野菜にまつわる豆知識や野菜作りのコツなどを直接聞くことができるワークショップを開催しました。

当日の様子

参加者は、クイズなどを通じて、野菜について楽しみながら学ぶことができ、「藤田先生のユーモア交えたお話が聞いてよかった」「今後の農作業の際に役立たせたい」といった声が寄せられ、終始和やかな雰囲気でのワークショップとなりました。



レタスのお手軽プランター栽培

練馬区農業体験農園園主会の農業者が講師となり、レタスのプランター栽培が体験できるワークショップを開催しました。

当日の様子

参加者は、プランターでレタスを上手に育てるコツや畑での育て方との違いについて学んだ後、農業者の指導のもと、実際に植え付け作業に挑戦しました。子どもから大人まで熱心に植え付け作業に取り組む様子が見られ、家庭での野菜栽培に向けた理解を深める有意義な時間となりました。



おいしい狭山茶の淹れ方教室

埼玉県所沢市内のお茶農家である平岡忠仁さんら3名が講師となり、お茶農家直伝のおいしいお茶の淹れ方を学ぶことができるワークショップを開催しました。

当日の様子

参加者は、急須に注ぐお湯の温度によって、お茶のうまみや香りが大きく変化することなど、基本的な知識について説明を受けた後、自らお茶を淹れる実習に取り組みました。それぞれが好みに合わせた淹れ方を試しながら、お茶の魅力や奥深さに触れる機会となりました。



京野菜ミニ収穫体験

練馬区農業体験農園園主会の農業者が講師となり、普段あまり目にできない京野菜が収穫できるワークショップを開催しました。

当日の様子

参加者は、栽培から収穫までの流れを学んだうえで、鮮やかな紅色をした金時人参の収穫に挑戦し、実際に土に触れながら「採る楽しさ」と「育てる大変さ」の両方を学びました。体験後には、「貴重な体験ができた」「もっと収穫体験をやりたい」といった声が寄せられました。



寄せ植えワークショップ

練馬区内で鉢花、花苗などを生産する花き園芸農家の小川美佐子さんが講師となり、お花の寄せ植えが体験できるワークショップを開催しました。

当日の様子

参加者は、ガーデンシクラメンやパンジーなど色とりどりの花を使用し、思い思いの寄せ植えづくりに取り組みました。「初めての寄せ植えでも楽しめた」「家でも飾るのが楽しみ」といった声が寄せられ、花の魅力に触れながら、心温まるひとときを過ごす場となりました。



“好きな香りを選んで作る”モイストポップリ作り

神奈川大和市内でハーブを生産している小川穂さんが講師となり、ハーブを用いたモイストポップリを作ることができるワークショップを開催しました。

当日の様子

参加者は、豊富な種類のハーブの中から好みのものを選び、塩とハーブを何層にも重ね、自分だけのモイストポップリ作りを楽しみました。作業を進める中で、ハーブの香りや色合いの違いに気づく姿も見られ、「ハーブの香りで幸せな気持ちになれた」といった声が寄せられました。



買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

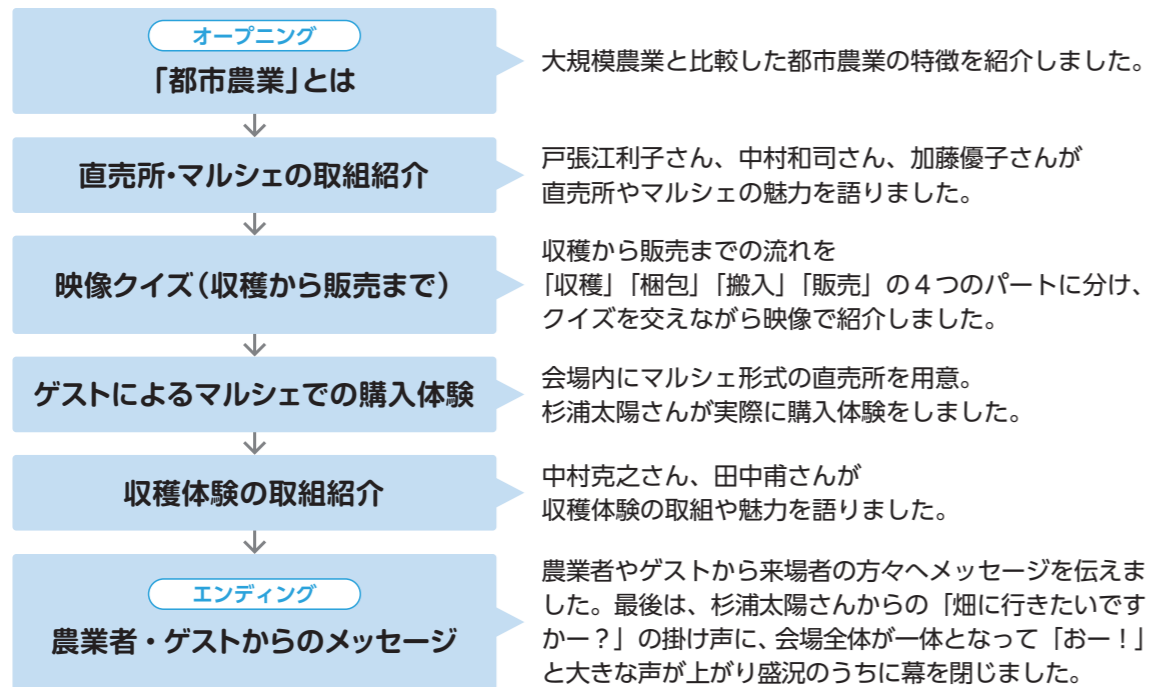


採れたて新鮮、おいしくて、

午前の部は、スペシャルゲストに杉浦太陽さんを迎え、MCの篠原久仁子さん進行のもと、これから都市農業を知りたい方向けに、直売所やマルシェ、収穫体験の魅力や楽しみ方を語り合いました。

たのしい“農” — 直売所と収穫体験の魅力 —

トークライブのプログラム



主催者あいさつ



映像クイズの様子



会場の様子

「都市農業」とは

都市農業は、大規模農業と異なり、住宅地の中で営まれ消費者との距離が近いこと、農地が小さく少量多品目の経営形態が多いこと、マルシェなど直売による販売が中心であることが特徴です。

トークライブ当日は、消費者との距離の近さを生かし、直売や収穫体験を通して地域住民との交流を大切にしながら営農している農業者から、直売所や収穫体験などの魅力や楽しみ方について話を聞きました。



登壇者

練馬区 田中農園

田中 甫さん



練馬区立野町で3代続く農園。地域の方に採れたて新鮮な野菜を手ごろな価格でお届けできるよう心がけている。

練馬区 かとちゃんファーム

加藤 優子さん



江戸時代から400年続く農家。少量多品目の野菜を年間80品目以上生産。減農薬・減化学肥料にもこだわっており、東京都エコ農産物認証を取得している。

松戸市 tobari tomato farm

戸張 江利子さん



松戸市にてハウス栽培トマトや四季折々の野菜を栽培。生産者と話しながら購入できる直売所を運営している。

国分寺市 国分寺中村農園

中村 克之さん



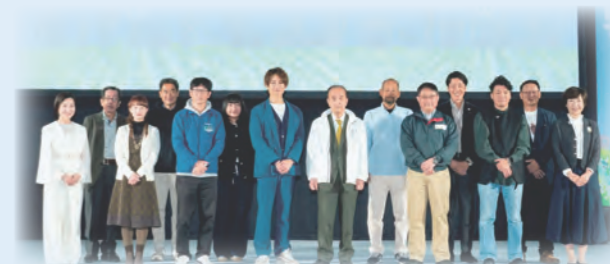
一番近い畑から一番安全でおいしい野菜を提供したいという想いで経営。多くの品目で東京都エコ農産物認証を取得している。

名古屋市 中村農園

中村 和司さん



昭和元年創業で100年続く梨農園。定番の幸水から幻の梨といわれる秀玉や新品種の瑞月など10品種以上の梨を生産している。



ゲスト

杉浦 太陽さん



俳優、タレント。釣り、料理が趣味の5子の父。Eテレ「やさしい時間」などにレギュラー出演中。ベジタブル&フルーツアドバイザー、きのこマイスターなどの資格を持つ。

司会

篠原 久仁子さん



野菜ジャーナリスト、野菜ソムリエ協会講師。訪れた畑は500以上。全国の農産物や流通業界を幅広く取材し、メディアや講演を通して美味しい情報を発信している。

トークライブの来場者からの声

- 今後も直売所などを利用して購入したいと思いました。
- 農業者の温かさやこだわり、農業の魅力を存分に感じることができ、農園や直営所に足を運んでみたくなりました。今後は農産物が作られる背景に着目してみたいと思いました。



午前の部 ライブレポート #1

松戸市 tobari tomato farm **とばり えりこ 戸張 江利子さん**



農園の紹介

・松戸にてハウス栽培トマト、四季の野菜等を栽培
・生産者と話しなが購入できる直売所を運営

主な生産品

ハウス栽培トマト

取組内容

庭先直売所

こだわり

・消費者と語りながら販売することで、ニーズに合わせた農産物の栽培につなげる
・地産地消をモットーに地域住民の方に農産物の成長過程を見ていただき、収穫後すぐ直売所にて販売

直売所の取組：生産者と消費者の“交流”

トーク概要

- ・4年前(2021年)から直売所の運営を始め、直売と出荷の両方をこなす。
- ・トマトの絵を直売所のシャッターに施すなど、きれいな直売所づくりにこだわりを持つ。
- ・朝、野菜を直売所に並べるため、毎日SNSで販売野菜の情報を発信している。SNSを見てたくさんの方が直売所に足を運んでいる。
- ・流通に向かない直売ならではのミニトマト「プチぷよ」を紹介。



消費者とのコミュニケーション

戸張さん 消費者の方とコミュニケーションをとりながら野菜を提供したいと思い、直売所を始めました。お客さんと毎日コミュニケーションをとり、何を栽培したらよいかご提案をいただいています。直接聞いたお客さんの声を取り入れるうちに、販売する品種も増えました。

杉浦さん 生産者と消費者が交流することで、畑もバージョンアップしていくということですね。とても素敵な取組ですね。



直売所でしか味わえない魅力

戸張さん 直売所で一番人気のミニトマト「プチぷよ」は、極薄皮のトマトといわれており、流通には向かないので、直売所で販売しています。

篠原さん この皮の薄さゆえに、流通に耐えられないので、直売所でしか購入できない。これも都市農業の魅力ですね。



戸張さんからのメッセージ

少しでも直売所に行きたいなって思っていたら、とても嬉しいです。

午前の部 ライブレポート #2

名古屋市 中村農園 **なかむら かずし 中村 和司さん**



農園の紹介

・昭和元年創業で100年続く梨農園
・10種類以上の梨を栽培

主な生産品

梨(定番の幸水から幻の梨といわれる秀玉や新品種の瑞月など10品種以上)

取組内容

庭先直売所

こだわり

・その日の朝一番美味しい状態の梨だけを見極めて収穫
・ジャムやゼラートなど加工品開発も展開

直売所の取組：直売所ならではの“寄り添う”販売

トーク概要

- ・名古屋市唯一の梨の直売所を運営。朝採れの梨をすべて直売所で販売している。
- ・お客さんに新しい品種を試食していただき、反応が良い品種を商品として提供している。
- ・多品種のセット販売や単品での販売など、消費者ニーズに合わせた販売を行っている。
- ・ジャムやゼラートなど、梨を使用した加工品も販売している。



直売所に並ぶ朝採り梨

中村さん その日一番美味しい状態を見極めた朝採り梨をお届けしています。昼間になると気温が上がり、傷みやすくなってしまいます。日の出と同時に収穫しています。市場出荷はしておらず、その日収穫した梨はすべて直売所で販売しております。

杉浦さん 直売所だけで全部完売してしまう人気ぶりすごいですね。それだけご近所の方に愛されているということですね。



お客さんの声に寄り添う直売所の強み

中村さん 贈答用として、1品種だけだと数が多いという声もあり、複数品種のセット売りをしています。また、贈答用にサイズの大きな梨が欲しい方もいれば、自家用なので小さくていいから安く買いたい方もいるので、10種類程度単価を変えて販売しています。

篠原さん お客さんの声を受けて、規格も細かくいろいろな種類を用意されているので愛されているわけですね。



中村さんからのメッセージ

遠くへ行かなくていいんです。近くの直売所へ行って農業者といろんな話をしていろいろな話を聞くことによって、日頃の楽しみを増やしてください。

買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

午前の部 ライブレポート #3

練馬区 かとちゃんファーム

かとう ゆうこ
加藤 優子さん



農園の紹介

江戸時代から400年続く農家で、少量多品目の野菜は年間80品目以上

主な生産品

いちご、トマト、きゅうり、なす、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー、とうもろこし他

取組内容

・マルシェ
・庭先直売所
・収穫体験
・スーパー、レストラン出荷
・学校給食
・JA東京あおば

こだわり

・減農薬・減化学肥料にこだわり、「東京都エコ農産物認証」取得
・朝採りの安全で安心できる野菜を提供

マルシェの取組：“顔を合わせて伝える”美味しい楽しい野菜

トーク概要

- 女性農業者などで組織するマルシェ団体「チームねりまde女子マルシェ」に所属している。
- マルシェでは、野菜ソムリエとして珍しい野菜や美味しい食べ方を紹介している。
- おすすめのレシピとして、大根フライやイチゴのサラダを紹介。
- JA東京あおば農業祭の品評会でミニトマトが金賞を受賞。



マルシェを通じた交流

加藤さん

練馬区内の女性農業者などで構成されている「チームねりまde女子マルシェ」というマルシェで、農産物や加工品の販売を行っています。マルシェを通してお客様に美味しい食べ方や珍しい野菜を知っていただき、お客様に購入して食べていただくと、「美味しかったわ」や「この食べ方良かったよ」と言ってもらえるのが楽しみの一つになっています。今のイチオシは大根フライです。お醤油とニンニクに20分ほど漬けて、唐揚げ粉と片栗粉半々で揚げるとガッツリした味で、おかずにもおつまみにもなります。



杉浦さん

農業者さんとの会話を楽しみながら、野菜に触れ合って買い物をする、食卓が豊かになりますし、野菜を食べてみようという気持ちになりますよね。親子で行くと食育の場にもなります。

篠原さん

自分でお買い物したものは思い出にもなりますからね。

杉浦さん

そうなんです。加藤さんの話を聞いて大根フライを食べてみたい子もいると思います。マルシェで教えてもらったレシピがきっかけで野菜食べられたってなりますし、いいじゃないですか都市農業。



加藤さんが作った大根フライ

加藤さんからのメッセージ

直売所やマルシェに来ていただき、お話して、野菜の魅力をお伝えしたいと思います。興味がある方は、とうきょう援農ボランティア事業を通じて一緒に農作業をすることができます。是非皆さんよろしくお願ひいたします。

午前の部 ライブレポート #4

国分寺市 国分寺中村農園

なかむら かつゆき
中村 克之さん



農園の紹介

一番近い畑から、一番安全でおいしい野菜を提供したいという想いの元に経営（東京農業発信拠点とすべく赤坂見附に東京農村ビルを保有）

主な生産品

イチゴ、東京うど、トマト、ナス、キュウリ、枝豆など年間40品目以上

取組内容

・こくベジを通じた市内飲食店への野菜提供
・マルシェ
・収穫体験
・地域連携での6次産業化

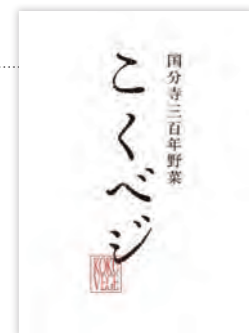
こだわり

・IPM（総合的病害虫管理）に積極的に取り組み、減農薬、減化学肥料を実現
・多くの品目で「東京都エコ農産物認証」を取得

収穫体験の取組：収穫体験の持つ多様な“可能性”

トーク概要

- 最新技術（光防除、天敵防除等）を用いるなど、持続可能な農業を心がけている。
- 国分寺市や農協、経済団体などと連携し、こくベジプロジェクトにて、国分寺市の農業のPRを行っている。
- こくベジプロジェクトを通じて飲食店のシェフやその飲食店のお客さんを対象に収穫体験を実施している。
- 畑と小学校をオンラインで繋ぎ、畑の様子を教室で見せるオンライン授業を行っている。



収穫体験を通して伝える生産者の想い

中村さん

こくベジプロジェクトを通してつながった飲食店の方などを対象に、収穫体験を行っています。実際に農産物を作っているところを見て、減農薬の取組などを理解していただくことで、飲食店を通じて、お客さんにもそういった取組を知っていただいています。

篠原さん

収穫体験を通じて、飲食店の方やお客さんに生産者の想いが伝わることは、モチベーションにもつながりますよね。



就農のきっかけは子供の一言

中村さん

子供が自分で収穫したきゅうりを食べて、「おじいちゃんの作ったキュウリ最高!」と言われたとき、人生観が変わって就農しました。収穫体験からいろんなことが始まるなと感じます。

杉浦さん

子どもの一言って大事ですね。収穫した生の小松菜を食べた当時4歳の長女が「小松菜っておいしいね」って言ったとき、僕も感動しました。長女も初めて生で野菜を食べた感動があったと思いますし、子どもから力をもらえますよね。



中村さんからのメッセージ

私たちの力だけでは都市農業は絶対残せません。畑を開いて皆さんをお待ちしていますので、勇気を持って畑にお越しいただければと思います。

買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

午前の部 ライブレポート #5

練馬区 田中農園

たなか はじめ
田中 甫さん



- | | | | |
|-------------------------------|--|---|--|
| 農園の紹介
練馬区立野町で3代続く農園 | 主な生産品
サツマイモ、大根、ニンジン、ブロッコリー、小松菜、ジャガイモ、玉ねぎ | 取組内容
・収穫体験(地元の町会、地元の保育園など)
・庭先直売所
・マルシェ | こだわり
採れたて新鮮な野菜を、地域の方に手ごろな価格でお届けできるよう心がけている |
|-------------------------------|--|---|--|

収穫体験の取組：子供の“笑顔が輝く”はたけ

トーク概要

- ・地元町会のジャガイモ掘りを親の代から行っており、毎年およそ700株を収穫体験として提供している。
- ・練馬区の「ねりまベジかるファーム」事業を通じて、新たにサツマイモや大根の収穫体験を実施している。
- ・保育園等の収穫体験も年々増やしており、今年も保育園の収穫体験を4件受け入れている。
- ・収穫体験のほか、庭先直売所やマルシェ活動、学校給食への提供などの取組を行っている。



収穫体験を通して伝える生産者の想い

田中さん 子供たちの笑顔がすごい好きで、近隣保育園の収穫体験の受け入れなどをしています。保護者も収穫体験の記憶って結構残っていて、私自身も幼稚園の頃にサツマイモの収穫体験をした記憶が残っています。だんだんと収穫体験ができる場所がなくなっている状況もあり、子供たちに収穫を体験してもらおう機会を提供したいと思い、取り組んでいます。

杉浦さん 都内で芋掘りができる環境があるのはとてもありがたいですね。練馬で収穫体験ができるんだという気づきもあると思いますし、1度行ったらじゃあ来年も行こうという継続的な楽しみにもなりますよね。

田中さん 子供たちが畑に入って、駆け回って賑やかにしているとこちらも嬉しいです。

杉浦さん 子どもたちの「いっぱい採れたよ」とか「お母さんにポテトフライ作ってもらったよ」といった声を聞くと嬉しいですもんね。



田中さんからのメッセージ

私としても今後20年、30年頑張っていこうと思いますので、地元の野菜を身近で見かけたらぜひ購入してみてください。

午前の部 ライブレポート #6



ゲスト **杉浦 太陽さん**

オープニングトーク

全国の畑を巡りながら、練馬区で13年ぐらい前にレンタル農園して子どもたちにも食育をしてきました。近所にも結構直売所があって、畑が景色の一部になっています。農家さんと話す機会ってなかなか無いと思うんですけど、直売所が近くにあると、「今日この大根が採れたよ」「どんなレシピがおすすめ？」みたいに、コミュニケーションがとれます。あとは鮮度が全然違ったり、お値段も安かったり直売所のメリットは多いですね。



マルシェ形式で会話をしながらの購入体験

加藤さんの朝採れ野菜を使い、普段行っているマルシェをそのまま会場内に再現。杉浦さんがお客さんとなって購入体験を行いました。

杉浦さん 気軽にお話ししながら買い物ができる。直売所の魅力ですよ。でも、お話ししながら買うと、ついつい沢山買っちゃうんですね。キュウリを買いに来ただけなのに大根もついつい買っちゃうみたいです。



杉浦さんからのメッセージ

野菜の話をこんなに深く聞ける機会ってなかなか無いので、いろいろな想いを聞けると、消費者としても嬉しいし、農業を応援してる側としても勉強になるし、こういう方々がいると明るい未来につながっていくんだなって思います。野菜に興味を持つきっかけというのはすごく大事なことで、生産者の皆さんの声を聞けたので、僕自身もすごく嬉しかったです。農業大国である日本の農業を応援したいという皆さんの想いが集まって、日本を支えていくことにつながっていくと思います。楽しみながら、そして味わいながら農業を応援していきましょう。

〈ライブの最後に〉
杉浦太陽さんからの「畑に行きたいですかー？」の掛け声に、会場全体が一体となって「おー！」と大きな声が上がって盛況のうちに幕を閉じました。



買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

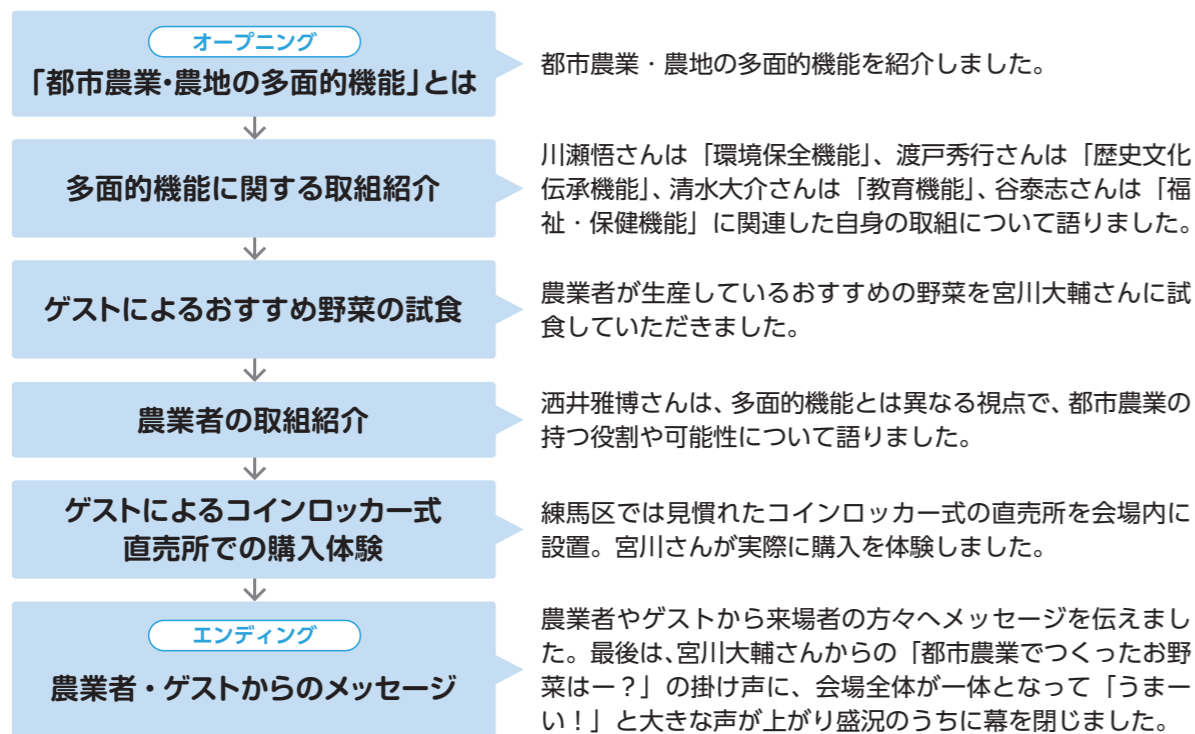


都市農業の魅力を再発見し

午後の部は、スペシャルゲストに宮川大輔さんを迎え、MCの小谷あゆみさん進行のもと、更に都市農業を知りたい方向けに都市農業の多面的機能や農業者の取組について語り合いました。

てみませんか? — 都市農業・農地の機能や農業者の取組を紹介 —

トークライブのプログラム



農業者によるトークの様子



ステージの様子



宮川大輔さんがコインロッカー式の直売所で購入体験する様子

「都市農業・農地の多面的機能」とは

都市農業は、都市生活に欠かせない様々な役割を担っています。その役割を「都市農業・農地の多面的機能」と呼び、練馬区では8つの機能に分類しています。

トークライブ当日は、これらの機能が私たちの都市生活にどのような影響を与えているのか、農業経営はもちろん、地域活動にも精力的に取り組んでいる農業者から話を聞きました。



◀動画で見る「練馬の都市農業」

登壇者

練馬区 ファーム渡戸

わたと ひでゆき
渡戸 秀行さん

練馬大根をはじめ江戸東京野菜など約30種の野菜を庭先直売所で販売。江戸東京野菜コンシェルジュの資格を持つ。



練馬区 さかい農園

さかい まさひろ
洒井 雅博さん

ブルーベリー観光農園のほか季節の野菜を年間20品目以上栽培。都内畜産動物⇒東京産野菜⇒都民による消費といった、東京で完結できるよう取り組んでいる。



所沢市 オーガニックファーム所沢^{のうと}

かわせ さとる
川瀬 悟さん

年間200種以上の野菜を露地栽培している。旬の美味しい野菜を通して、所沢の畑から食卓までが有機的につながる野菜作りを行っている。



京都市 清水農園

しみず だいすけ
清水 大介さん

京都市内外で農業を営み、生産物は直売所で販売。教育機関で農業指導を行い、畑でのキャリア教育を実施している。



高知市 谷農園

たに やすし
谷 泰志さん

施設園芸でハウスミョウガを専門に栽培。新鮮でミョウガ特有のエグ味の少ないミョウガがこだわり。農福連携、高知やミョウガのPRなど幅広く活動している。



ゲスト

みやかわ だいすけ
宮川 大輔さん

お笑いタレント。「世界の果てまでイッテQ!」など出演多数。NTV「満天☆青空レストラン」ではMCとして全国各地の農場や漁港に出向き、食と生産について学んでいる。



司会

こたに あゆみ
小谷 あゆみさん

野菜ジャーナリスト。野菜を作るアナウンサー「ベジアナ」として農ある暮らしを発信。生産と消費をつなぐことを使命に取材活動を行う。



トークライブの来場者からの声

- 農業者の生の声を聞き、農業者の想いが伝わってきました。新鮮な野菜や果物を手に入れられるだけでなく、環境・歴史・教育・福祉など、都市農業の多面的な機能について知ることができました。
- 消費者にできることは何かを考え行動するきっかけになりました。

午後の部 ライブレポート #1

所沢市 オーガニックファーム所沢農人

かわせ さとる
川瀬 悟さん



- 農園の紹介**
旬のおいしい野菜を通して、所沢の畑から食卓までが有機的につながる野菜作りを行っている
土や自然環境に配慮した農業を営んでいる
- 主な生産品**
オーガニックによる通年露地栽培(年間200種以上)
- 取組内容**
食と環境を豊かにするための取組を実践
- こだわり**
「おいしい」野菜を口にして、「野菜」でお腹と心を満たしてほしい
持続性ある循環型な有機農業の実践

環境保全機能の取組：人とつながり“循環する資源”

トーク概要

- 一般的な野菜から珍しい野菜など幅広く栽培し、ご家庭への野菜セットの宅配やマルシェで直接販売を行っている。
- 大学で学んだ生態学を活かし、食品残渣・もみ殻の堆肥化や畑に麦を撒いて生き物の生息空間を作るなど、環境へ配慮した野菜づくりを行っている。
- 地域の方と農業を通じたコミュニティづくりにも尽力している。
- 資源と地域の循環を掛け合わせて持続可能な社会の形成を目指している。



地域資源の循環

- 川瀬さん** 環境にも気を配るよう心がけています。お客様や飲食店の方など、農業を通じたつながりからご家庭や飲食店で出た生ごみと粗殻を引き取り、作った堆肥を野菜作りに使うことで、地域内で資源が循環する仕組みを作っています。
- 宮川さん** ペットボトルのキャップのように、都市部で生ごみをスーパーで集めるのは難しいけど、自分でできることがあるんじゃないかと考えて取り組んでいるのです。素晴らしい取組だと思います。
- 川瀬さん** 農家として、大きな社会貢献につながると考えて取り組んでいます。



地域の人と一緒に取り組む

- 川瀬さん** 市内で出る落ち葉やビール麦などといった有機物の回収を通して、お客様との交流を心がけています。持続的な社会をつくるために農業者としてできることを地域の方と一緒に取り組んでいきたいです。
- 小谷さん** 捨てるごみになるものを堆肥にして、また次の食べ物につなげていくのです。



川瀬さんからのメッセージ

食べることでやっぱり生きていくために必要なことだと思っています。自分が食べるものがどんなものなのか、どこでどうやって作られているのかを感じてほしいです。

午後の部 ライブレポート #2

練馬区 ファーム渡戸

わたど ひでゆき
渡戸 秀行さん



- 農園の紹介**
練馬大根をはじめ江戸東京野菜など採れたて野菜を庭先直売所で販売している
- 主な生産品**
練馬大根ほか約30種
- 取組内容**
小学校の出前授業
江戸東京野菜栽培講座
- こだわり**
農業や化学肥料の削減を心がけており、「東京都エコ農産物認証」を取得
江戸東京野菜コンシェルジュや東京都指導農業者として、技術や知識を次世代につなげている

歴史文化伝承機能の取組：江戸から伝わる農業の“歴史と想いをつなぐ”

トーク概要

- 練馬区平和台で江戸時代から続く農家。
- 古くから伝わる江戸東京野菜を次世代につなぐ活動を行っている。
- 練馬区立農の学校で実施している江戸東京野菜栽培講座や小学校の出前授業の講師を務める。
- 練馬区の農業や練馬大根の栄枯盛衰の歴史を説明。



練馬の農業の歴史

- 渡戸さん** 練馬大根は明治時代中期頃から作られ、大正時代にピークとなりますが、連作障害等で生産が減って昭和20年頃にはほとんど栽培できなくなりました。昭和20年代後半、練馬大根に代わってキャベツが生産されるようになります。一時は東京に出回るキャベツの6個に1個は練馬産といわれるほどでしたが、大規模産地からの流入で衰退し、現在の少量多品目の経営形態に落ち着きました。
- 宮川さん** 冒頭で練馬大根が何百年と続いているのがすごいと言いましたが認識を間違えていました。今でも栽培が続いている裏側には、栄えて衰退してといういろんな歴史があったのですね。



「練馬大根沢庵漬込み図」大森 輝秋 筆

伝統野菜を次世代につなぐ

- 渡戸さん** 江戸東京野菜の栽培講座では、なぜ栽培が途絶えてしまったのかを考えながら実際に栽培を体験してもらっています。農業機械も農業も化学肥料もない時代に、先人たちが一生懸命守り続けた江戸東京野菜を次世代につないでいくのが私の仕事だと思っています。
- 宮川さん** 熱い想いを感じました。未来や子供たちのためにも江戸から続く野菜や農地、そして農業者の想いをずっと守っていかないとはいけません。



渡戸さんからのメッセージ

都市農業は面積的には非常に減少していますが、人間が生きている限り農業がなくなることはない私は信じています。ぜひ地元のお野菜を食べてください。

買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

午後の部 ライブレポート #3

京都市 清水農園

しみず だいすけ
清水 大介さん



農園の紹介

・京都市内外で農業を営んでおり、生産した農産物は経営する直売所で販売
・京都市内外の教育機関で農業を指導し、畑での援農作業によりキャリア教育を実施

主な生産品

米、タケノコ、他野菜

取組内容

・各種教育機関で講師を務める
・京タケノコの伝統栽培法の普及活動に努め、付加価値を高めるため各種機関と連携(毎年4月8日 清水寺の法要にタケノコを奉納)

こだわり

直売所にて旬の農産物をお客様と対話しながら販売

教育機能の取組：農業で京都市を“食育の街に”

トーク概要

- ・小中学校、高校、大学、専門学校、児童養護施設などで農業指導を実施している。
- ・京都市内の高校でキャリア教育を行っている。
- ・アメリカからの大学生に日本の農業・文化を知ってもらうグローバルな活動も展開している。
- ・目標は京都市を食育の街にすること。



農業を通じた生きたキャリア教育

清水さん 市内の高校から「将来の仕事への意識付けをしてほしい」とキャリア教育の授業の依頼がありました。授業では、一緒に京タケノコの伝統栽培法「京都式軟化栽培法」に取り組んでいます。授業を受けた卒業生も作業に来てくれています。

宮川さん 本気で仕事に向き合っている大人を見ることで、高校生も自分と向き合うことができたんですね。自分の未来をしっかりと考えることができた卒業生が、感謝の気持ちも込めて会いに来てくれるのは嬉しいです。



農業体験を通じたグローバルな教育

清水さん アメリカの大学生の視察を受け入れたこともあります。住宅街の中の田んぼで一緒に田植えをしたり、竹林でタケノコを掘ったりしました。京都は今や観光地。観光客が農業体験を通して日本の文化を知る時代が来ているのかなと思っています。

宮川さん 海外から農業体験に来た方と手伝ってくれている日本の学生が交流できるようになる。そして、それが当たり前になって盛り上がっていけば、もっと面白くなると思います。



清水さんからのメッセージ

マルシェや直売所など生産者の顔の見える所にぜひ行ってもらいたいです。難しい場合はスーパーへ行かれた際に地元の農産物を手にとっていただきたいと思います。

午後の部 ライブレポート #4

高知市 谷農園

たに やすし
谷 泰志さん



農園の紹介

・施設園芸でハウスミョウガを専門に栽培

主な生産品

ミョウガ

取組内容

・ミョウガや高知食材のPR
・課外授業への協力
・福祉活動

こだわり

新鮮でミョウガ独特の香りを残し、エグ味の少ないミョウガを栽培

福祉・保健機能の取組：農福連携と農業で“広がる輪”

トーク概要

- ・農福連携で障害者施設の方に農業を手伝っていただいている。
- ・学校給食にミョウガを提供するなど、教育面での活動も行っている。
- ・NPO法人を立ち上げ、海外のシェフを高知に誘致し、和食を勉強してもらう活動を通じて、高知食材のPRを行っている。
- ・農福連携・教育連携・PR活動など、農業を通して人と関わる活動を目指す。



障害者の労働機会の創出

谷さん 農業の世界も人手不足。とある講演をきっかけに障害者施設の方に声をかけて、障害者の方にミョウガの袋詰め等の作業を手伝ってもらっています。私たちが助けられていますし、施設で働くよりも多く賃金を払うことができるので、手伝ってくれた方も喜んでくれています。

小谷さん 障害者の方も、農業が仕事の間になって社会活動ができているんですね。



多くの人とつながる農業

谷さん いろんな人とつながって、農福連携だけでなく、高知のこともミョウガのことも、もっとPRしていきたいです。こうした活動を続けながら、作るだけでなく、農業を通じて人と関わる活動に取り組んでいきたいと思っています。

宮川さん ミョウガや高知のことだけにとどまらず、人とのつながりという大きな輪を考えて取り組まれている。いろんな人とつながってできた輪から、働くことや出会いのチャンスが生まれていますね。なかなかできることじゃないですよ。素晴らしいですね。



谷さんからのメッセージ

まずは農業に関わっていただくこと。それから興味を持ってもらい、土を触ってもらいたいですね。家庭菜園で農産物の一つ作ってみてください。収穫した時の感動は最高ですよ。

買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

午後の部 ライブレポート #5

練馬区 さかい農園

さかい まさひろ
酒井 雅博さん



農園の紹介

夏はブルーベリーの摘み取り観光農園、施設栽培のトマトを年間通して栽培
露地では江戸東京野菜の練馬大根等、季節の野菜を年間20品目以上栽培

主な生産品

施設栽培トマト、ブルーベリー、季節の露地野菜

取組内容

・地元小学校の児童に練馬大根の播種、収穫体験の食農教育
・福祉作業所への農作業委託。福祉作業所が運営するカフェへの農作物委託販売
・小学生の圃場見学での、多面的機能の説明

こだわり

・八王子の牧場から出る牛糞堆肥を使用した土づくり
・都内畜産動物→東京産野菜→都民による消費といった、東京で完結できるような仕組みづくりに取り組んでいる

消費者の“理解”と都市農業の“可能性”

トーク概要

- 江戸時代から続く農家の6代目。
- 牧場から堆肥を仕入れ、都内で循環させる取組を実施している。
- 教育・福祉の面では、小学校での授業や、福祉作業所との連携を実施している。
- JA全青協の要職を務め、農家の課題をまとめるポリシーブックの作成など、日本農業全体を視野に入れた活動を行っている。
- 消費者の役割と都市農業の持つ可能性について紹介。



消費者の役割と農業者の取組

酒井さん

食料・農業・農村基本法が25年ぶりに改正され、「消費者の役割」が条文に明記されました。現在は食育基本法の改正が検討されています。農業者が野菜の値段を上げたくても、消費者の理解なしには上げられない。小中学生に限らず、様々な世代の方々に農業や農村の役割をしっかりと伝えていこうと考えています。

宮川さん

スーパーでトマト高いなって思うけど、それにはやっぱり理由があるんですね。その理由を調べたり勉強したりして、自分で確認することが大事なんだと思います。作っている方がこんなに必死なんだから、消費者も真剣に考えて選んで食べないといけないですね。



都市農業を理解するには

酒井さん

都市農業では、畑に直売所があり、住宅地の中に畑があって、農業者がどうやって作物を育てているかが分かります。農業体験農園や収穫体験ができる農園があって、学べる場所がたくさんあります。今日聞いた話を家族や友人と共有して「面白そうだから行ってみよう、やってみよう」と伝えてほしいです。

宮川さん

今日の帰り道でも、次の日でも、ぜひ畑に足を運んでいただきたいですね。



酒井さんからのメッセージ

農業者も消費者と同じ方向を見て都市農業を守っていきたいと思っています。少しでも良いので、都市農業に興味を持って毎日の生活を送っていただきたいです。

午後の部 ライブレポート #6



みやがわ だいすけ
ゲスト 宮川 大輔さん

オープニングトーク

練馬の都市農業については、都心から近いところで歴史あるお野菜が何百年とずっと続いていることがすごいなと思います。昔の風景や人々の生活も見えてくる感じも好きです。歴史を守る、練馬大根や野菜を守るために土地を守ってきたということを実感しています。

区民農園で野菜を栽培しているのですが、手入れを怠るとすぐ野菜に現れる。農業者の方々は腹を括ってお仕事されていて頭が下がります。今日は色々教えて頂きたいです。



農業者さんのおすすめ野菜を試食

農業者さんが生産している野菜をおすすめの食べ方で宮川さんに試食してもらいました。宮川さんから「うまーい!!」の言葉が出ると、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。



川瀬さん: にんじん100%ジュース 渡戸さん: 練馬大根スパゲティ 清水さん: 新米おにぎり 谷さん: ミョウガ丸かじり

宮川さんからのメッセージ

今日登壇されたこの5名の農業者のところに行くのが難しくても、近くでもいいので、都市農業をやっておられる方がたくさんいるので、そのピンポンを一回押してみてください。その一歩を踏み込んでください。

農業者の方々は一生懸命、命をかけてやってらっしゃるので、ぜひ興味を持って頂きたい、それだけなんです。できることは人それぞれですが、今日を機会に何かちょっとやってみましょう。僕も発信していくことをもっと頑張りたい、番組で「うまい」を叫びたいな、と思います。

〈ライブの最後に〉

宮川大輔さんからの「都市農業でつくったお野菜はー?」の掛け声に、会場全体が一体となって「うまーい!!」と大きな声上がり、盛況のうちに幕を閉じました。



買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

意見交換会

参加自治体の農業者、JA職員、行政職員による、意見交換会を開催しました。
17の自治体から総勢48名が参加し、8グループに分かれて活発な意見交換が行われました。
【開催日時】令和7年11月15日（土）16:30～18:40
【会場】ホテルカデンツァ東京 アゼリア ほか



開催の目的と経緯

令和5年度に開催した全国都市農業フェスティバルにおいて、第1回意見交換会を開催し、自治体間の交流・連携のきっかけづくりを行いました。

フェスティバル開催後、参加自治体からの「継続して意見交換できる機会が欲しい」との声を踏まえ、令和6年7月にオンラインによる連絡会「都市農業サロン」を立ち上げました。都市農業サロンでは、各自治体が抱える課題や先進事例の共有等を通じて、自治体間の連携を強化しています。

今回の意見交換会は、以下の①・②を目的として開催しました。

- ① 自治体間の連携の充実を図ること。
- ② 都市農業の更なる発展につなげるための取組の共有や新たな気づきを通じて、各自治体での今後の取組に活かすこと。

タイムスケジュール

	時間	進行
全体	16:30～16:40	開会挨拶(目的・進行説明)
グループ	16:40～16:45	参加者自己紹介
	16:45～17:10	意見交換:現状と課題
	17:10～17:35	意見交換:10年後の理想像と今後の取組
	17:35～17:55	発表に向けたまとめ
全体	17:55～18:35	各グループからの発表
	18:35～18:40	全体統括・閉会

参加自治体および参加者数

埼玉県 所沢市 3名	東京都 杉並区 2名 練馬区 9名	神奈川県 川崎市 3名 大和市 3名	愛知県 名古屋市 3名	奈良県 奈良市 2名
千葉県 千葉市 1名 松戸市 3名	八王子市 1名 立川市 1名 小平市 1名 国分寺市 4名	静岡県 静岡市 4名 浜松市 2名	京都府 京都市 3名	高知県 高知市 3名
計48名				

四つのテーマとグループ分け

意見交換会では、「都市農業への理解醸成」、「経営の安定化」、「担い手の確保」および「都市農業を取り巻く環境」の四つのテーマを設け、A～Hの8グループ*に分かれて意見交換を行いました。

各グループでは、選択したテーマに関する「現状と課題」および「10年後の理想像と今後の取組」について意見交換を行いました。

※1グループ8人(ファシリテーターおよびファシリテーター補佐を含む。)

テーマ	グループ	農業者などから挙げられた主なキーワード	
		現状と課題	10年後の理想像と今後の取組
① 都市農業への理解醸成	A	苦情相談、体験・情報発信	子供の頃からのファンづくり、継続的な情報発信、ブランド化
	B	地域で支える・つながる、楽しむ	地域で支える・つながる・消費者に知ってもらう
② 経営の安定化	C	ニーズの一致、継続的、高齢化	連携、ポジティブ、農業の魅力
	D	ブランド化、流通、経営改善	成功事例の共有、仕組み作り、持続可能
③ 担い手の確保	E	就労継続支援B型の継続雇用	同一労働・同一賃金、高付加価値
	F	援農ボランティア・マッチング、学生	ファン・リピーター
④ 都市農業を取り巻く環境	G	後継者対策、農地の価値を見直す、農業者・JA・行政の連携	生産者のプライド・モチベーションを上げる、農地の多面的価値を上げる、作物の価値を上げる
	H	農地の減少、農業者・JA・行政の更なる連携	高付加価値商品・地産地消、消費者への理解創出

グループA

テーマ

都市農業への理解醸成

現状と課題

キーワード 苦情相談 ※苦情の内容(土ほこりなど)

- 地場産農産物や地産地消への関心・ニーズは高まっている。一方で、土ほこりなどに対して畑に隣接したマンションや分譲住宅等の住民理解が進まず、苦情が発生してトラブルが絶えないことが課題である。
- 市で開催しているイベントやJA主催のマルシェ等において、ブランド農産物の販売を行うことで、市民に身近な農業をPRしている。繰り返しイベント等に出店することでファンは増えているが、いまだ畑の近隣住民からの苦情は多く寄せられていることが課題。
- 農地や農家戸数は減少しているものの、多数の農地が市内に残っている。しかし、住宅地に畑があるため、有機農業が非常に難しく、特に臭気・害虫問題が課題となっている。



キーワード 体験・情報発信

- 地域住民に農業を理解してもらうため、親子収穫体験、夏休みに米作り体験等を開催している。最近では、市内初の農家主体の観光農園を開設し、市のホームページ等で情報発信を行っているが、まだまだ農業と住民がふれあう機会が少なく、課題に感じている。
- 都市農業でのブランド野菜等の栽培は、減少傾向にある。生産だけでなく、SNSなどを活用し、県内外問わず情報発信を強化していくことが課題である。

その他の意見

- 「CSA(Community Supported Agriculture)」*のような、消費者に野菜を定期購入してもらう取組を行っている。仕組み上、消費者が野菜を選ぶことができない。消費者は自ら選んで購入することに慣れているため、農業者側が野菜を選ぶことに賛同する方が少ないことが課題。

*CSA(Community Supported Agriculture):生産者と消費者が連携し、前払いによる農産物の契約を通じて相互に支え合う仕組み。

- 農地減少の最も大きな要因は、相続税の高さ。10億円を超える相続税が一度で発生することもある。

グループメンバー

※敬称略

農業者：上村 あかり（所沢市）、清水 大介（京都市）
JA職員：小林 隼人（練馬区）
行政職員：松戸 繁和（松戸市）、齋藤 貴彦（小平市）、
遠藤 標野（大和市）



10年後の理想像と今後の取組

キーワード 子供の頃からのファンづくり

- 子供の頃から農業に触れてもらうことが重要。そのため、体験農園や学校給食への野菜の供給などは継続して取組を行っていききたい。将来的には、全市民が農に触れ合えるような、農業に理解がある都市にしたい。
- 学校での食育活動に更に力を入れ、各世帯に少なくとも1人は食育を受けた人がいる状態が目標。指導生徒が増えれば卒業生との連携が生まれてくる。自身は料理学校でも食育を行っており、今後は料理関係者や農産物提供者とも関係性を築きたい。地域全体に食育が広まっていくことが将来のビジョンである。
- 収穫体験等を通じて、多くの方に農業への理解や興味を持ってもらうことで、農業者が農作業しやすい環境が整い、農産物の販売が行いやすくなる等の相乗効果を生みたい。
- 消費者とコミュニティを作り、消費者と生産者の距離を近くして、一緒に農業を支えていきたい。農業者側の目線に立った収穫体験の仕組みを考え、実施したい。

キーワード 継続的な情報発信

- 生産緑地の重要性や多面的機能に関する情報発信を継続していききたい。収穫体験を通じた農業への理解醸成等、近隣住民はもちろんのこと、区民全体に対して継続的に働きかけていきたい。
- 小さなことでもとにかく続けることが大事。活動の積み重ね、継続した情報発信が10年後に繋がる。

キーワード ブランド化

- 自身の市が1番という特筆すべきブランド野菜を作っていきたい。
- ブランド化は非常に重要。住民にとって、自身が住んでいる地域の自慢といえるものがあるとよい。

グループ発表

発表者：清水 大介さん（京都市）

▶『現状と課題』では、住宅街が近いという都市農業の特徴から、近隣住民からの苦情が課題であるとの意見が多く、課題解決に向けた各自治体での取組などが印象的だった。

▶『10年後の理想像と今後の取組』では、都市農業への理解を深めるため、SNSの活用や行政との連携による情報発信、子供の頃から農業を体験することが重要であるという意見が挙げられた。都市農業への理解醸成に向け、どんな取組であっても、継続していくことが最も重要であると感じた。



買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

グループB

テーマ

都市農業への理解醸成

現状と課題

キーワード 地域で支える・つながる

- 地域ブランドの農産物があり、生産者が直接販売できる市内直売所やマルシェもある。一方で、地域住民の「農業」に対する関心は薄く、スーパーで買うことが当たり前となっている。農産物を購入する判断材料として、「産地」ではなく「金額」が優先されやすいことが課題である。
- 「どうしたら農協に子どもが来てくれるか」という点に着目し、地域限定のイベントを開催している。約1,000人の近隣住民が来場し盛り上がっている。課題として、施設の敷地が狭く、これ以上の規模拡大ができない。シーズンごとのイベントを細かく打つなどの工夫が必要。



キーワード 楽しむ

- 直売所やマルシェで農産物の販売を行っている。販売する商品に興味を持って来場した方には積極的に話しかけることができるが、偶然立ち寄った方などに商品をお勧めするときは、上手く話せないことが課題と感じる。自身も楽しんで接客し、商品の魅力を発信したい。
- 行政としてイベント出展するなど、様々なことに取り組んでいるが、まずは自分たちが楽しむことを一番に心がけている。農産物をPRし、それが消費者に響いた実感を得たときに、楽しいと思える。様々な案内方法を試して、消費者に響く伝え方を模索していく必要がある。

その他の意見

- 有機農業が全く知れ渡っていないことが課題だったため、大学の農業研究員、地元ゆかりのある著名人および農業者でトークセッションを開催した。その結果、市民が有機農産物などの知識を深め、購買行動につながり、消費者の農業に対する親近感が生まれた。
- 消費者と直接やり取りする中で、消費者がどのような価値を重視して農産物を購入しているかを理解する必要がある。また、生産者がマルシェに出ること、特に若い人が農業に興味を持つことが重要であり、輪が広がればマーケティングにつながる。

グループメンバー

※敬称略

農業者：中村 克之（国分寺市）、村本 陽子（静岡市）
JA職員：川勝 昭紹（京都市）、岩井 則幸（練馬区）
行政職員：細谷 拓郎（所沢市）、土野 優斗（奈良市）



10年後の理想像と今後の取組

キーワード 地域で支える・つながる・消費者に知ってもらう

- 消費者に都市農業の魅力や農地が持つ機能を丁寧に伝えながら、地域ぐるみで都市農業の活性化が図れたら素晴らしい。
- 栽培した農作物について、自分自身が深く知り、その魅力を消費者に伝えていきたい。
- 自分が美味しいと思った農産物を自ら広める消費者がいる。そのようなファン作りを行うことによって、二重三重となって情報が広がっていくと考えている。
- 消費者が自分で農作物を作ること、苦労や価値を理解し、購入する農産物の価値をより深く感じるようになると思う。消費者に「自分で作りたい」と思ってもらえるような取組を進めたい。
- 農業者の生の声を消費者に届けることで、農産物の価値や信頼が高まると考えているため、その機会を増やしていきたい。

その他の意見

- 小中学校の給食にも地元産農産物が使われ、若手農業者が地元で定着し、地域のブランド野菜の生産を支えている状況が理想。
- 地元で採れた農産物を選んでもらうため、高付加価値化やブランド化が理想である。地産地消から、農産物の認知度を上げて、首都圏への販路拡大まで実施していきたい。
- 東京都は農業への支援が非常に手厚く、非常に恵まれた環境が整っている。そのため、農業はアパルト経営よりも収益性が高いと感じている。同じ農業者にもその点を理解してもらい、農業を行うことの魅力を広めることが大切だと考えている。

グループ発表

発表者：村本 陽子さん（静岡市）

- ▶ 『現状と課題』では、消費者と農業者が地域でつながり、支え合いながら農業を行っていくこと、なにより楽しんで農業を続けていくことが重要であるとの意見が挙がった。
- ▶ 『10年後の理想像と今後の取組』では、農家以外の人に農業を知ってもらうことで、地域でのつながりを強化し、支え合っていきたいという意見が挙がった。



買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

グループC

テーマ

経営の安定化

現状と課題

キーワード ニーズの一致

- 年間150から200種類ほどの野菜を栽培している。注文が来た野菜を収穫し、野菜セットで宅配する方法と、マルシェに出店する方法で販売を行っている。作った野菜と注文が一致すれば良いが、必ずしも消費者のニーズと一致しないのが現状である。また、注文が無いと売上げが立たない点が課題である。



キーワード 継続的

- 特産品にしていきたいと考えている農産物を、市のお祭りや行政の施設で販売している。一方で、市民や県民への継続的な情報発信ができておらず、特産品としての認識が低いことが課題である。
- 事業という認識をもって続けることが農業の面白さであり、楽しさであると思っている。一方で、収益を上げて事業として継続するには時間がかかるため、事業が軌道に乗るまで継続できるかが課題である。



キーワード 高齢化

- オリジナル品種の農産物を育てており、長期的な産地の維持のため、品種の更新に取り組もうと考えている。一方で、働き手の高齢化で人員が減るなか、雇用が安定せず担い手不足が課題となっている。

その他の意見

- JAでECサイトやダイレクトメールを通じた販売を行っているが、価格、流通およびプロモーションの結果が検証できていない。
- 直売所の利用者は主に近隣住民だが、より多くの集客や新規顧客の取り込みが必要である。また、近隣の大型スーパーとの差別化を図る必要がある。
- 農産物の総称ブランド名の認知度向上のため、その農産物を提供している飲食店でのPRや様々なイベントを展開し、成果を上げている。イベント実施の効果を更に高め、集客力を上げるための周知方法が課題である。

グループメンバー

※敬称略

- 農業者：川瀬 悟（所沢市）、中島 敬之（高知市）
 JA職員：山本 裕二（大和市）、東 彰信（浜松市）、高橋 稔晴（練馬区）
 行政職員：飯塚 達儀（国分寺市）



10年後の理想像と今後の取組

キーワード 連携

- データや根拠資料を基に、販売方針や新商品の開発、プロモーションを検討したい。情報は、組織内で横断的に連携を行っていききたい。
- 行政やほかの団体とも連携して関係性が深まると、それぞれの保有データが補完できる。活発な情報共有が必要ではないか。
- 高齢化により農業者が減っていくため、新規就農者などに加わってもらいたい。更なる売上の維持拡大に努めていきたい。そのため、行政への働きかけが必要と考えている。
- 地産地消の定着が理想である。現在は市やJA、商工会など大きな団体が主体となって地産地消を働きかけているが、地産地消が自走化することが最終的な完成形と考えている。

キーワード ポジティブ

- 正直、10年後のことは具体的に想像できていないが、農業を通じて色んな人と関わり、ポジティブに農業の魅力や可能性を伝えていきたい。
- 農業の未来はそれほど暗くはないと思っている。生産者は自分の農産物に自信をもって生産をしているため、引き続き様々な人と話し、色々なことを想像しながら前向きに農業に取り組んでほしい。

キーワード 農業の魅力

- 直売所を通じて、区内産野菜をより多くの区民の方に購入してもらうことが目標。多くの区民の方に食べてもらい、区民の都市農業への理解を深めていきたい。
- 農産物の品質がどんなに良くても、まずは認知されることが重要である。外食産業を通して市内だけでなく、市外の方にもPRを進めていきたい。

グループ発表

発表者：川瀬 悟さん(所沢市)

- ▶ 『現状と課題』では、消費者に対する継続的なPRや、消費者のニーズに合わせた野菜作りの難しさに関する課題が特に印象的だった。
- ▶ 『10年後の理想像と今後の取組』では、組織内のみならず、JAや行政が連携することで、お互いに持っている情報が共有でき、消費者ニーズの調査により有効活用できるなどの意見が挙げられた。



買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

グループ

テーマ

経営の安定化

現状と課題

キーワード ブランド化

- 新規就農者でも売上げが得られる販売エリアを作り、持続可能な農業を進めるため、食のブランド化に行政主体で取り組んでいる。課題としては、ブランドの認知度向上と自走化、持続可能性を更に高めることである。最終的には、農家や加工品業者が自ら商談等をして、主体的に動けるようになってほしい。
- 個々の農業者の意識は高いが、農業者それぞれが強い思いを持って営農しているため、地域ブランドを立ち上げようとしても、農業者の声が一つにまとまらないことが課題である。
- ブランド戦略が課題となっている。地産地消という軸と、地域外(遠方)に広めていくという軸のバランス・両立が難しい。どちらかが回ればもう片方も事業として加速すると思うが、コロナ禍以降、それが難しくなっていると感じる。



キーワード 流通

- 限られた耕作面積で少量多品目の栽培を行っており、農産物の販売は、生産者の庭先や個人直売所、JAの直売所等が大半を占めている。現状、JAでは共選共販^{*}に取り組めておらず、時期によっては品目が過剰になることがある。事業者から市内産農産物の活用ニーズはあるが、流通体制の構築が進んでいないことが課題。

^{*}共選共販:農産物の選別・出荷方式。共同で選別し、共同で出荷すること

キーワード 経営改善

- 農業者の経営安定化を図るため、行政として「経営改善」および「販路拡大」についての講座を実施している。現在の講座内容では、販路の確保や売上向上などの経営課題を解決するまでには至らないことが多く、講座の構成に課題を感じている。
- 直売所の売上向上を通じた農業者の所得向上を目指し、外販の推進や、学校給食等に積極的に取り組んでいる。一方で、計画的な作付けや、農産物の運搬に課題がある。
- 直売に力を入れて、ほぼ100%を直売で販売できるようになった。個人でのブランド化を強化しており、行政やJAもブランドの推進に協力してくれているが、安定経営には加工品や販路の工夫、価格設定の見直しなどの課題がある。

グループメンバー

※敬称略

農業者：遠藤 一直（大和市）、中村 和司（名古屋市）
 JA職員：角田 良介（川崎市）、都築 弘子（練馬区）
 行政職員：鈴木 健太（千葉市）、渡邊 知里（奈良市）



10年後の理想像と今後の取組

キーワード 成功事例の共有

- 行政が実施している経営改善等の講座受講者の声を反映し、より農業者に必要とされる講座を、毎年度提供し続けていきたい。経営者としてモデルとなる成功事例を、行政が発信して共有できるシステムを構築したい。

キーワード 仕組み作り

- 農地減少と後継者不足が課題であるなか、農業を継がない理由として、農業経営や所得の不安定さが挙げられる。現状を変えていくため、「農業」が魅力ある産業であることを、後継者にも感じてもらえる環境・仕組みづくりを進めたい。
- 地域活動に学校給食を取り入れることで、都市農業を一層身近に感じてもらえるようにしたい。一方で、流通の問題が解決できず、地域の子もたちに地産の食材を食べさせてあげることができていない。JAとして、流通課題を解決する仕組みづくりができればと考えている。
- 現在進めている野菜自動販売機の設置は、農家の所得向上のみならず、農地の必要性や魅力を伝える大事なツールであると考えている。これをきっかけに農業後継者や新規就農者が増え、市内に農業拠点となる道の駅やアンテナショップ等の魅力発信施設が整備できればと思う。
- 直売だけでは安定経営に不安がある。加工品の販売強化、直売が減収したときはSNS等で通信販売を検討するなど、小規模でも行えるモデルを模索し、挑戦していきたい。

キーワード 持続可能

- 都市農業の持続可能性や、後継者問題が課題である。その中で、市として地域の「顔」となるものを確立することを目標にしている。それらに行政や農業者も携わる意識を醸成していき、課題解決に繋げていきたい。そのためには、市自体の知名度を底上げしていく必要がある。

グループ発表

発表者：遠藤 一直さん（大和市）

- ▶ 『現状と課題』では、市民が誇れる「食」のブランドを確立するため認定制度を創設したが、認知度向上や自走化、持続可能性が課題であるという意見が印象的であった。
- ▶ 『10年後の理想像と今後の取組』では、流通体制を構築し、生産者が安心して生産できるようにしたい、農業が農業後継者にとって魅力ある産業にしていきたいなどの意見が挙がった。



買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

グループE

テーマ

担い手の確保

現状と課題

キーワード 就労継続支援B型の継続雇用

- 繁忙期に合わせて、就労継続支援B型[※]の方の雇用を行っているが、季節労働が多いため、年間雇用が難しいことが課題。また、作業指示についても課題がある。得意な作業のみ行ってもらうなど、上手く依頼できれば大きな助力となる。
- 農業にパートで関わってくれる人が減少している。このため、障害者の方ができる農作業について、障害者施設と話をした上で、障害者雇用を始め、作業員不足を補っている状況。一方で、障害者の方々に仕事を依頼する方法や作業補助、生産性向上が課題である。どうすれば、継続して障害者の方々に働いてもらえるかを考えながら仕事をしている。

※就労継続支援B型：一般企業等での就労が困難な方や、一定年齢に達している方に、働く場を提供するとともに、知識や能力の向上のために必要な訓練を行う障害福祉サービス



その他の意見

- 平成初期に生産緑地制度が導入されたことで、農地減少は穏やかになった。しかし、生産緑地解除の時期となり、担い手の高齢化や後継者不在により、農業を続けたくても続けることができない方、定年後も就農を選ばない次世代が増えている。
- 資材の高騰や猛暑などの影響で、営農活動の継続および新規就農が難しくなっている。
- 新規就農を希望する相談は年間50件ほどあるが、実際に就農に至る数は3件程度であり、実参入者が少ないと感じている。また、貸出農地不足により、農地を借りる需要が多くなっている。一方で、耕作放棄地の数は多いが、所有者側が貸出希望を出すまでに至らないことが課題である。
- 地域の若手農業者同士で、色々な助け合いや情報交換に取り組んできたが、少子化の影響もあり就農希望者が減っているため、農家のコミュニティが縮小していることが課題である。
- 地域の食文化と農業を体験する食育プログラムを実施している。プログラムを通して農業に興味を持ってもらい、将来的には担い手確保に結び付けたいが、食から農業へと興味を転化させる方法が課題である。

グループメンバー

※敬称略

農業者：石川 元（静岡市）、谷 泰志（高知市）、
村田 光生（練馬区）
JA職員：戸張 潤也（川崎市）、大塚 基広（名古屋市）
行政職員：村松 遼飛（浜松市）



10年後の理想像と今後の取組

キーワード 同一労働・同一賃金

- 障害者や就労困難者の雇用場所の確保および適正な賃金を支払える雇用を構築したい。出勤日数を増やして労働者の給与を増やしたい。
- B型就労についても、一般の働き手と同様の仕事に携わっているため、将来的には同等の賃金水準まで引き上げることが目標である。また、パート従業員についても、年間を通じて働くことができる仕事にしていきたい。

キーワード 高付加価値

- 地域内販売だけでなく、ネット販売や高品質を活かした料亭向けの販売にも活路を見出している。農業者自身の目的・意識が営農の形を大きく左右するため、農業者の考えを丁寧に聞くことも重要。
- より営農が続けやすい環境・制度が整っていることが理想で、農業者が取り組むきっかけやモチベーションを高めていきたい。また、生産者には安定して農業を継続してもらえるよう、JA主導で栽培指導、販路拡大や作物のブランド化を進めていきたい。

その他の意見

- 次世代の若手農家が地域コミュニティに参加し、10年後もコミュニティを維持していくことが理想。
- 「なぜ農業をしないのか」「どうして人が集まらないのか」といった根本的なところから考え、所得や労働環境などの様々な課題を一から解決していく必要がある。
- 企業による農業経営の拡大や外国人材などの多様な担い手が確保され、農業生産および経営耕地の維持が図られている状況が理想。

グループ発表

発表者：谷 泰志さん(高知市)

- ▶ 『現状と課題』では、農業に携わる人が減少している現状において、障害者の方々が農業に携わってくれる有難さを再確認できた。その上で、障害者の方々への作業内容の伝え方に工夫の余地があると感じた。
- ▶ 『10年後の理想像と今後の取組』では、農業に携わる障害者や就労困難者への適正な賃金支給、農業が続けやすい環境および制度の充実、農業者の安定した所得の確保など様々な提案が挙がり、取り組むべきことが多くあると実感した。



買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

グループF

テーマ

担い手の確保

現状と課題

キーワード 援農ボランティア・マッチング

- 家族経営で人手が足りず、援農*ボランティアを活用している。人数確保のため、ボランティア要件を「初心者でも歓迎」にしているが、実際に来た方にどこまでの仕事を任せて良いのか線引きが難しく、課題と感じている。また、天気や曜日など、日によって人手が足りない日がある。
- 農業者の高齢化や後継者不足により、農家戸数が減少している中、ボランティアの募集に対する応募はとも多く、区民の農業への関心は高い。しかし、ボランティアを使う農業者が限られているなど、マッチングに課題がある。
- 市独自のボランティアに約100名が登録し、活動している。ボランティアと農業者のマッチングをメールで行うため、人柄や希望を正しく読み取れない。このため、農業者が求めることと、応募者が行いたいこととのミスマッチが起こってしまう課題がある。
- 援農ボランティアは面接等も行わず決定するため不安だったが、来た方は一生懸命取り組んでくれた。おかげで農作業がはかどり、とても役立っている。

*援農：農家ではない人が、有償または無償で農作業を行うこと。

キーワード 学生

- 農家に働き手を紹介する無料職業紹介所事業を行っているが、登録者のほとんどが40代以上の方で、学生の登録が少ない。若い方にも農業に関わってほしいが、JAとして学校などとのつながりがなく、若い方と関わる機会が少ないことが課題。
- 援農ボランティアには学生も多く登録しており、作業に来てもらうことも多い。論文関連でのボランティア依頼も多く、農業の傍らで学業にも役立っている学生もたくさん来ている。

その他の意見

- 新規就農者の掘り起こしとして、市内外で就農相談会の出展や農業大学校ガイダンスでの説明会を実施している。農業者から繁忙期に人手が足りないと相談され、JAがあっせんする農作業ヘルパーの紹介を行っているが、市としての支援制度が無いことが課題。



グループメンバー

※敬称略

農業者：田中 甫（練馬区）、加藤 優子（練馬区）
JA職員：後藤 茜（松戸市）
行政職員：石野 哲夫（杉並区）、丸山 浩史（立川市）、
八田 良一（高知市）



10年後の理想像と今後の取組

キーワード ファン・リピーター

- 各農家の取組状況やボランティアに求めているものが分かるようなものを作成し、ホームページ等で公開する。このような、農家のファンを作り、ボランティアが行きたい農家を選べるようなシステムを作りたい。
- ウェブサイト上で簡単にボランティアと農業者のマッチングができるシステムがあれば、農業者が急に助けが必要なおきにもスムーズに対応できるようになると考えている。
- ボランティアに来るリピーターが増え、安定的に人手を確保できるとありがたい。自治体や東京都のボランティアを活用しつつ、リピーターの方には自身の農園でLINEグループ等を作り、すぐに人を集められる状態を作ることが理想。
- ボランティアの中には、雑草取りなど特定の作業を好む方もおり、ボランティア一人ひとりのニーズに応えられれば良いと感じる。
- 後継者不足および都会への人口流出が深刻であるなか、大企業の副業制度等で、都会から地方の農業を支援してもらえるような取組が進むことが理想。

その他の意見

- 都内の野菜需要に応えられるよう、貸借で畑を増やし、援農ボランティアの力を借り、更に広く農業を行いたい。また、収穫体験等を通じて、楽しく農業を広めていきたい。
- 学校とのつながりを作り、農家に働き手を紹介する無料職業紹介所を周知し、学生の登録者を増やしたい。

グループ発表

発表者：加藤 優子さん（練馬区）

- ▶ 『現状と課題』では、担い手を確保するため、援農ボランティアに来てもらっているが、マッチングが上手くいかないとの意見が多く挙がった。
- ▶ 『10年後の理想像と今後の取組』では、援農ボランティアのリピーターを増やし、LINEグループ等を活用し、必要な時に来てもらえるようにしたいという考えについて、可能性はあるのではないかと意見が挙がった。



買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

グループG

テーマ

都市農業を取り巻く環境

現状と課題

キーワード 後継者対策

- 担い手不足が深刻で、作業する人が1人しかいない農家もある。そのため、市民農業大学を卒業した一般市民が援農ボランティアの登録ができる制度を用意し、登録者の希望に基づき、JAと行政でマッチングを行う派遣制度を行っている。しかし、すぐに辞めてしまう人もおり、担い手不足の課題は解消されていない。
- 生産緑地や総合農政制度等、農地を保全するインフラの整備は進んでいるが、農業者を守っていく視点が不足していると感じる。農地の貸借増加によって農地は保全できても、農業者が集約化される懸念がある。依然として、農業者の減少に対して危機感を抱いている。



キーワード 農地の価値を見直す

- 都市農業の振興を図ることを目的に、市街化区域内農地での営農活動のための補助金交付を実施している。一方で、農地所有者が市街化区域内の農地を資産として捉え、相続人が農業を行わない場合、相続時に売却、転用される。また、農地を住宅として活用した方が利益になると考え、農家を辞めて土地を転用する人もおり、都市農業が衰退の一途をたどっている。都市農地には様々な機能があり、価値がある。何をすれば都市農地で農業を行ってもらえるかが課題。
- 宅地化や相続の影響で都市農地は減少しており、強い危機感がある。農地は一度転用すると畑には戻らない。このため、農地の価値や生産緑地制度の活用方法を農家に伝えていく事が重要である。



キーワード 農業者・JA・行政の連携

- 農業を行いたい人はいるが、家族内での継承にこだわるケースも多く、土地所有者とのマッチングが上手く進んでいない。農地を借り、農業が軌道に乗っても、後から土地の返却を求められるなど、人間関係が絡み解決が難しい問題も多いことが課題である。行政と農家が継続的にコミュニケーションを取ることが重要。

その他の意見

- 子供を対象に摘み取り体験や食育を行うが、高校生以上になると意識されなくなることが多い。官学が連携し、大学生など将来を考える世代に対し、農業を将来の選択肢として意識してもらえるような取組が必要である。

グループメンバー

※敬称略

農業者：戸張 江利子（松戸市）、渡戸 秀行（練馬区）
 JA職員：杉本 智雅（杉並区）、山口 俊輔（国分寺市）
 行政職員：山崎 正広（八王子市）、松浦 直希（静岡市）



10年後の理想像と今後の取組

キーワード 生産者のプライド・モチベーションを上げる

- 小規模農家が孤立せず、モチベーションを維持できることが理想。少数になっても、農家同士で悩みを共有し、横のつながりを保つことが重要である。また、JAとして農家同士のつながりを支え、モチベーションの維持、農地に加え農業者を残すという観点に重きを置くことが重要である。
- 農家が食料生産に誇りを持ち、後継者が育つ環境を整えるためには、補助金や資材支援など行政によるコスト支援が必要であり、それが最終的に消費者にも還元される仕組みが望ましい。

キーワード 農地の多面的価値を上げる

- 市街化区域内農地は、農業体験の場や、景観形成、災害発生時の防災スペースとしての機能など、多様な役割を發揮している。できる限り多くの人々が都市農業を継続するための支援を続け、今ある市街化区域内農地を維持していきたい。
- 普段はスーパーやネットなどで簡単に食べ物が手に入るが、災害時にはそうはいかない。都市農業の重要性が改めて見直されると考えている。災害が来る前に、都市農地の価値について市民に理解を深めてもらいたい。
- 都市農業の利点を活かした農業体験などのアクティビティを提供し、消費者の食への関心を高める環境を作りたい。

キーワード 作物の価値を上げる

- 新鮮な地元野菜は現地ではしか味わえないため、伝統野菜や地域特産野菜を積極的にPRし、市民との交流や購買の流れを生むことが重要である。季節ごとの特産品に特化したイベントや取組を通じて、農家の意欲向上や付加価値創出につなげていきたい。

グループ発表

発表者：渡戸 秀行さん（練馬区）

- ▶ 『現状と課題』では、農業の後継者不足について農業者・JA・行政の連携や未経験者へのサポートを向上させるとともに、新たなアイデアを試し多くの人と共有する必要性を感じた。都市農業への新たなニーズとそれらに向き合う大切さを再確認できた。
- ▶ 『10年後の理想像と今後の取組』では、多面的価値を上げることで、農地が生産・環境・防災・教育・交流の場となるのが理想であり、それが現実的な目標であると感じた。AIや機械の進化を取り入れ、庭先で消費者とお茶を飲みながら交流できるような、楽しく健康に農業を続けられるのが理想である。



買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

グループH

テーマ

都市農業を取り巻く環境

現状と課題

キーワード 農地の減少

- 宅地開発が進み、人口は増加している。しかし、農業者の高齢化による担い手不足や、土地の区画整理、相続税対策などで年々都市農地が大きく減少していることが課題。
- 税負担(相続税)の重さにより農地の減少が起きており、国に要望をあげていくしかない状況にある。
- 農地は防災、環境保全、教育など、多機能である。農地が減れば農産物供給以外の機能が成り立たなくなってしまうのではないかと感じる。



キーワード 農業者・JA・行政の更なる連携

- 市街地の生産緑地に関しては、相続の関係で貸したがる農家が増え、農業者は土地を借りたくても借りることができない。
- 農業を始めたい人が農地を借りられないため、始めることができない。行政がスムーズに農業を始められる仕組みを作り、新規就農者のハードルの高さを解消していく必要があると感じる。
- 土地所有者は、身の上が分からない人に貸したがる人もいる。行政や中間管理機構が間にすることで、借りる人の信用性を高めて就農の架け橋になれるよう取り組んでいる。
- 生産緑地の貸借は行政区ごとに管理されており、区をまたいだ貸借は調整が難しい。県の農業会議等広域的な仕組みを活用し、行政間の調整を進める必要がある。
- 都市農業の価値や食育を消費者に伝える活動を、積極的に行っているが、農業者だけで対応するのは限界がある。大人への食育など、国の食育方針の変化にも対応できるよう、行政側の部署間の連携体制を整えることや、農業者・JA・行政の三者が協力して、仕組み化された支援体制を作ることが課題である。

その他の意見

- 特定生産緑地の更新が2032年に迫る中、後継者不在の農家にいかに更新してもらおうかが都市農業において最も重要な課題の一つである。
- 相続税の問題は、地域全体の農地保全に影響している。生産緑地法における30年要件や、相続税の納税猶予に伴う終身営農については、都市農業を守る必要が高まっている現在の実情に必ずしも適合していないように感じる。終身営農義務の緩和について、各方面への慎重な働きかけが必要である。

グループメンバー

※敬称略

農業者：村本 将弘（静岡市）、酒井 雅博（練馬区）
JA職員：平塚 和大（国分寺市）、小島 教正（名古屋市）
行政職員：辻 裕紀（川崎市）、中筋 祐司（京都市）



10年後の理想像と今後の取組

キーワード 高付加価値商品・地産地消

- 商品の付加価値を高めてブランド化していく取組を促進する。農業者・JA・行政が一体となって行うことが重要である。
- 都市農業の価値を多くの市民が理解し、農業と都市の共存が理想。地産地消の好循環が生まれる都市農業を目指したい。
- ブランド化に力を入れて農業を熱心に行いたい方々と、農地を守りたいが本格的に農業を行うことが難しい方々の間で、スーパーには無い特別な農産物を共に作り上げる協力が求められている。
- 農地の近くで農家の顔が見える形での販売を通じて、地域住民に農産物の魅力をPRすることは、農地の価値を地域に伝え、農地を守る意識を高める手段として理想である。

キーワード 消費者への理解創出

- 都市農地の機能が更に認識されることが理想。地域住民との連携、学校給食における地場産農産物の使用を増やすことを目指す。
- JAや農業者、企業、ホテルなどが一緒に集まり、地域農業を守りつつ、生産地と消費地をつなぐマッチングや売り先の開拓を行っている。この取組を、より具体的な形で定着させたい。

その他の意見

- 都市農業を残していくためには、農業者・JA・行政の三者が協力して連携することが不可欠であり、各々が10年後の未来像を一緒に描く必要がある。
- 異常気象に左右されず用水が確保できること、鳥獣害対策が地域ぐるみで行われることで、農地を借りる人が増え、若手農家が増えることが理想。

グループ発表

発表者：酒井 雅博さん（練馬区）

- ▶ 『現状と課題』では、農地減少について都市部と山間部では対策が異なるため、分けて考えるべきであるとの意見が挙がった。農業者・JA・行政が連携を強化することで、農業の魅力発信、貸し手と借り手の農地の効率的なマッチング、国の政策や環境の変化などに対して柔軟に対応し、農地減少に歯止めをかけたいと思った。
- ▶ 『10年後の理想像と今後の取組』では、親元就農者も新規就農者も農業を始めやすい環境整備、農業と都市の共存、新技術による生産の安定などを達成することで、豊かな「農」ある暮らしが次世代へ引き継がれている状況が理想である。



買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

懇親会

【開催日時】令和7年11月15日(土)19:00~20:30

【会場】ホテルカデンツァ東京 ラ・ローズ

参加自治体を歓迎し、参加自治体同士の交流を深めることを目的に、懇親会を開催しました。参加者は、練馬産農産物をふんだんに使った料理を楽しみながら、それぞれの取組などについて語り合いました。会場では、区内外で活躍する「石神井太鼓保存会せんば太鼓」が演奏を披露しました。

参加者集合写真



会場の様子



広報

- 区内農業者、参加自治体と連携したPR
- 関係団体等と連携したPR
- 区主催イベント等でのPR



区内農業者、参加自治体と連携したPR

区内農業者との連携

区内農業者約120名の協力を得て、全11種類の農業者ポスターを作成し、農業者が運営する直売所等(約180カ所)やJA東京あおばの直売所、区立施設に掲示しました。フェスティバル2025の開催を周知するとともに、練馬区で営農する農業者の皆さんを広く知ってもらう機会となりました。

全11種類



直売所等には、農業者ポスターやのぼり旗などを設置し、フェスティバル2025の開催をPRしました。



参加自治体との連携

全国版農業者ポスター

参加自治体の農業者の協力を得て、全国版の農業者ポスターを作成しました。参加自治体の庁舎やJA直売所等に掲出しました。



全3種類

参加自治体による応援メッセージ動画

SNS(Instagram)を活用して、参加自治体によるフェスティバル2025の開催に向けた応援メッセージ動画を紹介しました。



InstagramでのPR

「農業はこんなに面白い!都市農業を楽しく・身近に感じる情報メディア」をコンセプトに、InstagramでのPRを行いました。フェスティバルの周知・来場促進および都市農業・練馬区の農業の認知・興味喚起ができる様々な投稿を行いました。



▶公式アカウントはこちら



関係団体等と連携したPR

区内施設との連携

Coconeriや光が丘IMAと連携して、フェスティバル2025の開催をPRしました。

Coconeri

懸垂幕 期間：7/7～11/16
サイネージ 期間：11/10～11/16



光が丘IMA

フラッグ 期間：11/1～11/16
サイネージ 期間：11/6～11/16



関係団体の広報誌・フェアでのPR

各種広報誌への掲載

関係団体の広報誌の表紙や特集ページでフェスティバル2025を紹介しました。



広報誌あおば

- 産連ニュース (令和7年9月号) (一社) 練馬産業連合会
- 広報誌あおば (令和7年10月発行) 東京あおば農業協同組合
- 光が丘 ima'am (令和7年10・11月号) 光が丘IMA (株) 新都市ライフホールディングス
- ライフアップ (令和7年11月号) 特別区職員互助組合

全国都市農業フェスティバル 2025応援フェア開催

練馬区商店街連合会の協力により、フェスティバル2025の応援フェアを開催しました。



西武 旅するレストラン 「52席の至福」特別運行

西武鉄道(株)の協力により、11月5日(水)に区民限定で貸し切り列車を運行しました。

列車内では、サツマイモや練馬大根などの練馬区産野菜を使った料理が提供されました。また、車内ではフェスティバル2025の周知を目的に、特設スペースの設置や、オリジナル缶バッジの配布を行いました。



交通広告

期間：11/10～11/16

区内および区周辺駅でポスター掲出やPR動画の放映などを行い、機運を醸成しました。

アドピラー(柱巻)

練馬駅、光が丘駅



ホームドアステッカー

練馬駅、光が丘駅



ポスター

区内・区周辺27駅



デジタルサイネージおよび横断幕

池袋駅



電車内ビジョン広告

西武池袋線および都営大江戸線



▶実際に放映したPR動画はこちら



区主催イベント等でのPR

イベントへの出展など

区内のイベント等にブース出展し、PRを行いました。

- 練馬まつり (10/19)
- ねりまランタンナイト (10/19)
- YEBISU マルシェ (10/12、10/26)
- 東京味わいフェスタ2025 (10/24 ~ 10/26)
- ねりまの森の音楽祭 (11/3)
- ねりマルシェ (11/9)



練馬まつり



YEBISUマルシェ



ねりまの森の音楽祭



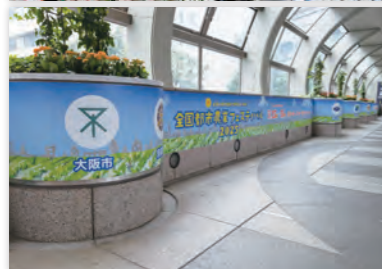
ねりマルシェ

練馬区役所本庁舎装飾

期間：10/20 ~ 11/14

練馬区役所本庁舎の装飾を行い、来庁者へPRを行いました。

やすらぎ歩道橋



区役所2階通路



アトリウム



立体文字アート
※立体文字アートは10/28から設置



懸垂幕

巻末資料

練馬区および参加32自治体の都市農業の取組紹介

全国都市農業フェスティバル これまでの歩み

委員名簿



練馬区および参加32自治体の都市農業の取組紹介

練馬区とフェスティバル2025に参加した全国32自治体の都市農業の取組を紹介します。

▶都市農業の取組は動画でも紹介しています。



東京都 **練馬区**

PROFILE 総人口：739,193人 | 総面積：48.08km² | 農家戸数：415戸 | 農地面積：184ha
主な農産物：キャベツ、ダイコン、ブロッコリー、カキ、ブルーベリー

▶自治体の取組

- 練馬果樹あるファーム**
練馬区内では、ブルーベリー、ブドウ、ミカン、カキ、イチゴなど、季節の味覚を楽しむ様々な果物が栽培されています。「練馬果樹あるファーム」では、新鮮な果物の購入や摘み取り体験ができます。
- 庭先直売所**
新鮮な農産物が購入できる農業者の庭先直売所。練馬区ではコインロッカー式の直売所が普及しています。様々な採れたて農産物が直売所にずらりと並びます。午前中で売り切れることも多いので、早めの訪問をお勧めします。
- ねりまベジかるファーム**
野菜の収穫体験ができる「ねりまベジかるファーム」では、楽しみながら、農業の大切さや魅力を感じることができます。収穫した泥付きの野菜を、家で洗っておいしく調理すれば、食卓の会話も弾みます。
- とれたてねりま**
庭先直売所や地産地消のお店、マルシェなど情報を掲載したアプリ「とれたてねりま」を配信しています。農に関する情報が満載のアプリを使って練馬の新鮮な食材を楽しめます。

茨城県 **坂東市**

PROFILE 総人口：51,936人 | 農家戸数：2,326戸
総面積：123.03km² | 農地面積：5,500ha
主な農産物：ねぎ、レタス、トマト

▶自治体の取組

- さしまふれあい農業祭**
毎年4月に農業祭を開催しています。JAや普及センター、4Hクラブなどの団体の協力を得て、生鮮野菜や地元の農産物を使用した料理を販売しています。
- 地元の新鮮な農産物加工品(お弁当、惣菜)名産品等の販売**
坂東市の魅力を多くの人に知ってもらうための観光、休憩、地域振興の拠点となる施設です。ここでは地元の特産品を取り扱っています。

埼玉県 **川口市**

PROFILE 総人口：606,890人 | 農家戸数：977戸
総面積：61.95km² | 農地面積：389ha
主な農産物：ぼうふう、鉄砲百合

▶自治体の取組

- 市役所マルシェ開催事業**
川口市でとれたての農産物を販売し、その魅力をPRするとともに、市民と農業関係者の交流を深め、地域の農業や緑化産業を盛り上げていくことを目指しています。
- 農業体験事業**
市民の農への理解を促進するため、農業の初心者等で家庭菜園を楽しみたい方を対象に野菜づくりの知識とコツを学ぶ講座を開催しています。

埼玉県 **所沢市**

PROFILE 総人口：342,296人 | 農家戸数：1,356戸
総面積：72.11km² | 農地面積：1,410ha
主な農産物：茶、里芋、人参

▶自治体の取組

- 所沢茶園**
所沢の名産品である狭山茶の魅力を発信するため、所沢の狭山茶を「所沢茶園」という茶園に見立てて、市内外へ発信しています。
- 参加できる世界農業遺産「武蔵野の落ち葉堆肥農法」**
木々を植えて林を育て、集めた落ち葉を堆肥として活用する江戸時代から伝わる農法。落ち葉掃きは参加型で行われます。環境再生型(リジェネラティブ)農業の精神を未来へ!

千葉県 **千葉市**

PROFILE 総人口：984,023人 | 農家戸数：911戸
総面積：271.76km² | 農地面積：1,652ha
主な農産物：ニンジン、イチゴ、コマツナ

▶自治体の取組

- 千葉市食のブランド「千」**
千葉市の農産物・加工食品・食関連サービスを対象に、優れた地域産品であると同時に社会課題の解決に取り組む生産者・事業者のつくる商品・サービスを「千」として認定しています。
- 体験型農園(いちご観光農園)**
千葉市では、古くからイチゴの栽培がさかんで、市内には約20園のいちご農園があります。そして、「千葉市のイチゴでBERRY HAPPY」を合言葉に観光農園の推進を行っています。

千葉県 **松戸市**

PROFILE 総人口：500,373人 | 農家戸数：662戸
総面積：61.38km² | 農地面積：631ha
主な農産物：ねぎ、梨、えだまめ

▶自治体の取組

- 市内農産物のブランド化推進**
シンボルマークである「みのりちゃん」ロゴマークの表示やみのりちゃんの着ぐるみを活用したまつど大農業まつり等における農産物のPR活動や、えだまめ学校給食を通じてブランド野菜の導入を推進しています。
- えだまめオーナー農園**
松戸市のブランド野菜である、枝豆の収穫体験ができます。農家さんが育てた美味しい枝豆を、自分の手で収穫する特別な体験を楽しめます。毎回抽選となるほどご好評をいただいております。

埼玉県 **日高市**

PROFILE 総人口：54,037人 | 農家戸数：304戸
総面積：47.48km² | 農地面積：816ha
主な農産物：くり、うど、ブルーベリー

▶自治体の取組

- みどりの学校ファーム**
学校単位に農園を設置し、児童生徒が農業体験を通じて、生命や自然、環境や食物などに対する理解を深め、生きる力を身につけることをねらいとした取組みを行っています。
- ひまわり探検隊**
市内の小中学生を対象に、夏休み期間を利用して子供たちの郷土愛の醸成と地域の人との交流を目的に事業を実施しています。特産品のブルーベリー狩りと、ジャム作りを行いました。

千葉県 **木更津市**

PROFILE 総人口：136,826人 | 農家戸数：1,144戸
総面積：138.90km² | 農地面積：1,271ha
主な農産物：水稲、ブルーベリー、梨

▶自治体の取組

- きさらづ学校給食米[®]の取組み**
木更津市では化学農業・化学肥料を一切使用せず環境にやさしい栽培方法で育てられた「きさらづ学校給食米[®]」を市内全公立小中学校の米飯給食に全量提供することを目指しています。
- 商品開発の取組**
令和4年度から「みどりの食料システム戦略交付金」を活用し、有機レンコンや「きさらづ学校給食米[®]」の規格外米の米粉、有機ブルーベリーを利用した商品開発を実施しています。

東京都 **世田谷区**

PROFILE 総人口：922,947人 | 農家戸数：291戸
総面積：58.05km² | 農地面積：74.46ha
主な農産物：大根、トマト、じゃがいも

▶自治体の取組

- 農のある暮らしの充実～収穫体験等～**
都市部にある農地の必要性和魅力を感じてもらうため、区民農園や体験農園、収穫体験など、農に親しむ機会を区内の農家の方々の協力を得て提供しています。
- 農福連携の取組み**
農地の保全と障害のある方の就労促進、工賃向上を図るため、農福連携に取組んでいます。障害者就労を伴う圃場管理のほか、農作業体験会や地域との交流事業なども行っています。

買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

*各自治体のプロフィール等は、フェスティバル当日に会場へ設置した参加自治体PRパネルを再構成しています。

東京都 杉並区

PROFILE 総人口：577,191人 農家戸数：119戸
総面積：34.06km² 農地面積：36.21ha
主な農産物：トマト、ダイコン、ナス

▶自治体の取組

- 農福連携農園
すぎのこ農園では障害者施設等の団体へ区画を貸し出し、農作業を通じて、いきがい創出や健康増進に繋がっています。収穫物は区内障害者施設等へ提供し、運営を支援しています。
- 地元野菜デー
杉並産野菜を全区立学校の学校給食で使用する「地元野菜デー」を年2回、農業者、JA 東京中央・区職員の協力のもと実施しています。農業者による出前授業も行い、農業の魅力を発信しています。

東京都 八王子市

PROFILE 総人口：558,196人 農家戸数：1,012戸
総面積：186.38km² 農地面積：765.7ha
主な農産物：トマト、ナス、コマツナ

▶自治体の取組

- はちおうじ農業塾
遊休農地解消の一方策でもある農家開設型農園の利用者の育成、及び農作業の担い手の育成を図り、2年間の研修カリキュラムに沿った講義、実習を行っています。
- 稲作体験
農家と市民との交流の促進と都市農業の現状に対する理解を得ることを目的に農業体験を実施しています。田植え、稲刈り、はぜかけをして、収穫祭を行います。

神奈川県 横浜市

PROFILE 総人口：3,777,000人 農家戸数：3,056戸
総面積：437.40km² 農地面積：2,694ha
主な農産物：コマツナ、キャベツ、ホウレンソウ

▶自治体の取組

- 地産地消を広める人材の育成
～はまふうどコンシェルジュ講座～
座学や農作業の実習などの全5回の講座を修了した方を、地産地消を広げる人材「はまふうどコンシェルジュ」として認定し、市内での地産地消に係る活動を推進しています。
- 企業等と連携した地産地消の推進
地産地消を広げるため、企業と連携し、地産地消のPRイベントの開催や、市内産農畜産物を使用した商品の販売等の取組を推進しています。

神奈川県 川崎市

PROFILE 総人口：1,550,182人 農家戸数：1,049戸
総面積：144.35km² 農地面積：502ha
主な農産物：ナシ、トマト、キュウリ

▶自治体の取組

- かわさき観光農園
工場や住宅地のイメージが強い川崎市ですが、市内では野菜や果物・花卉などが栽培されています。新鮮な農作物を自分の手で収穫し、その場で食べる観光農園の取組を行っています。
- 川崎市産農産物「かわさきさぞち」についての情報発信
かわさきさぞちPRキャラクターの菜果ちゃん、かわさきで愛情いっぱい育てられた野菜・くだもの・たまご・お花など「かわさきさぞち」の農産物やイベント情報を紹介しています。

東京都 立川市

PROFILE 総人口：186,641人 農家戸数：277戸
総面積：24.36km² 農地面積：247ha
主な農産物：ブロッコリー、うど、トマト

▶自治体の取組

- 独自のブランド「立川印」
立川農業の価値と魅力を広く深く理解してもらうために、立川農業全体をブランド化する取組として、誕生したブランドマーク「立川印」。
- 東京都内生産量1位「東京うど」
日本古来の野菜で、山菜の一種である「東京うど」は、太く白い良質などを生産するために「うど室」の中で生産しています。生産量は都内で1位です。

東京都 小平市

PROFILE 総人口：196,353人 農家戸数：314戸
総面積：20.51km² 農地面積：160ha
主な農産物：ブルーベリー、梨、うど

▶自治体の取組

- 農業とスポーツを味わう、収穫体験とサッカー観戦
市内在住の小学生とその保護者に、FC東京の元選手と触れ合いながら農作業体験や試食会、さらにはスタジアムでのサッカー観戦を体験してもらっています。
- 新鮮採れたてこだわら直売所マップ
新鮮な果物や野菜、花・植木を購入できる直売所をまとめたマップを配布しています。季節や農家によってバラエティ豊かな旬の農産物が購入できますので、お気に入りの直売所を探してください。

神奈川県 横須賀市

PROFILE 総人口：369,005人 農家戸数：333戸
総面積：100.81km² 農地面積：357ha
主な農産物：キャベツ、ダイコン、カボチャ

▶自治体の取組

- よこすか野菜メニューキャンペーン
よこすか野菜の周知・販路拡大を図るため都内有名イタリアレストランでよこすか野菜を使ったメニューを提供してもらっています。野菜はすかなごっそから毎週直送!
- ソレイユの丘で収穫体験
横須賀市の西側に位置し、21ヘクタールの広大な園内では収穫体験のほか、大型アスレチックやジップライン、グランピングなど様々なレジャーが楽しめます。

神奈川県 大和市

PROFILE 総人口：244,098人 農家戸数：344戸
総面積：27.09km² 農地面積：183.82ha
主な農産物：水稲、ブロッコリー、梨

▶自治体の取組

- 大和ルージュ即売会
JAさがみ大和地区青壮年部が、市内産の農産物を市民の皆様に広く知っていただくため、赤いトウモロコシ「大和ルージュ」をメインとして地場農産物を販売するものです。
- さつまいも栽培体験教室
市内の小学生を対象に、さつまいもの植えつけからつる返し、収穫までを体験できる教室です。市内の農家の方にアドバイスをもらい、座学と畑での実地で栽培を学びます。

東京都 日野市

PROFILE 総人口：188,402人 農家戸数：273戸
総面積：27.55km² 農地面積：139ha
主な農産物：トマト、梨、ブルーベリー

▶自治体の取組

- 新しい「交流農園」が開園
参加者が一緒に農作業を行う交流型の市民農園が2025年9月に開園。若い世代を中心に農業ファンを増やす取組をしています。
- 日野産農産物中心、素材から手作りの美味しい学校給食
市内小中学校全校「自校調理方式」により、出来立ての給食を提供。各校に栄養士を配置し、日野産農産物の収穫時期に合わせた献立を学校ごとに作っています。

東京都 国分寺市

PROFILE 総人口：129,578人 農家戸数：176戸
総面積：11.46km² 農地面積：112ha
主な農産物：トマト、ブルーベリー、東京ウド

▶自治体の取組

- 地場産農畜産物のブランド化「こくベジ」
こくベジプロジェクト推進連絡会（JA東京むさし国分寺支店／国分寺市商工会／こくぶんじ観光まちづくり協会／市等）が主体となり、こくベジのPRを通じた地産地消を推進しています。
- 庭先直売所とこくベジメニュー提供店のPR
市内約60か所の庭先直売所や約100店舗あるこくベジメニュー提供店（こくベジを使用しオリジナルメニューを提供している市内飲食店）をPRするイベントや広報を実施しています。

長野県 長野市

PROFILE 総人口：361,714人 農家戸数：9,902戸
総面積：834.81km² 農地面積：3,746ha
主な農産物：りんご、桃、ブドウ

▶自治体の取組

- 農業体験受入事業を実施
就農を希望する方に対し、地域農業者の指導による農業体験を実施し、新規就農の後押しをしています。
- ヘーゼルナッツの栽培振興
長野市は果樹の生産が盛んですが、りんご生産量の減少という課題も。そこで市が栽培振興に力を入れているのが「ヘーゼルナッツ」。長野市をヘーゼルナッツの一大産地にすべく挑戦しています!

長野県 上田市

PROFILE 総人口：151,120人 農家戸数：5,244戸
総面積：552.04km² 農地面積：5,170ha
主な農産物：米、レタス、りんご

▶自治体の取組

- 信州上田なないろ農産物
上田市は年間降水量が少なく、日照時間が長い、寒暖の差が激しいといった野菜や果物の生産に適した気候風土です。上田市ではこれを「信州上田なないろ農産物」と銘打ち、PRを進めています。
- 日本の棚田百選「稲倉の棚田」
「日本の棚田百選」に認定された「稲倉の棚田」は、稲倉の棚田保全委員会を中心に保全活動が進められています。棚田オーナー制度や「ししおどし祭り」、「棚田CAMP」等の取組が行われています。

*各自治体のプロフィール等は、フェスティバル当日に会場へ設置した参加自治体PRパネルを再構成しています。

静岡県 静岡市

PROFILE 総人口：669,584人 農家戸数：5,690戸
総面積：1,411.93km² 農地面積：3,940ha
主な農産物：茶、柑橘、いちご

▶自治体の取組

- いいき都市農業推進事業
都市農業の振興を図るため、市街化区域内の農地における生産活動や出荷調整、加工販売などの農業経営に必要な農業用機械の導入や施設整備に対する助成を実施しています。
- アグリチャレンジパーク蒲原事業
清水区蒲原に位置する市営施設である、アグリチャレンジパーク蒲原では、新規就農者向けの農業研修や、市民向けの農業体験事業を実施しています。

静岡県 浜松市

PROFILE 総人口：781,011人 農家戸数：10,042戸
総面積：1,558.20km² 農地面積：11,700ha
主な農産物：みかん、新玉ねぎ、お茶

▶自治体の取組

- 浜松パワーフード
温暖な気候や豊かな自然に恵まれた浜松・浜名湖地域では、たくさん農水産物があり、旬の食材を「浜松パワーフード」と定義し、浜松・浜名湖地域の食材のすばらしさを知っていただくための活動を行っています。
- 農業経営塾
浜松の農業をけん引する農業経営者や農業経営をコンサルティングする人材の育成を図るため、リーダーシップや組織管理、マーケティング等を身につける農業経営塾を開催しています。

大阪府 門真市

PROFILE 総人口：115,739人 農家戸数：123戸
総面積：12.30km² 農地面積：39ha
主な農産物：れんこん、くわい、軟弱野菜

▶自治体の取組

- 農産物品評会
年に1度開催されるJA北河内が主催する農業まつりにおいて、本市主催の地場生産作物の品評会を開催しています。
- なにわの伝統野菜
本市特産品であるれんこんが、「河内れんこん」として令和6年度に大阪府より「なにわの伝統野菜」に認証されました。

兵庫県 神戸市

PROFILE 総人口：1,487,741人 農家戸数：5,692戸
総面積：557.30km² 農地面積：5,040ha
主な農産物：米、軟弱野菜、果樹

▶自治体の取組

- 「BE KOBE 農産物」の推進
化学肥料の使用を通常よりも減らし、あわせて下水から回収したリンを配合した肥料や堆肥など、市内循環型資源を利用して栽培された農産物に、「BE KOBE」と表記する取り組みを進めています。
- マーケットの開催
日常的に神戸産農水産物を購入できる地産地消の場として、市街化区域で開催するマーケットを支援しています。生産者の農水産物を使った加工品を販売する事業者等、マーケットを通じたつながりも生まれています。

愛知県 名古屋市

PROFILE 総人口：2,329,646人 農家戸数：515戸
総面積：326.50km² 農地面積：933ha
主な農産物：トマト、タマネギ、ブロッコリー

▶自治体の取組

- 田んぼアート
葉の色の異なる古代米と「あいちのかおり」を使って、広大な田んぼに絵を描く稲作体験イベントです。平成23年に始まり、令和7年度で14回目の開催となります。
- 地産地消の推進
名古屋生まれの伝統野菜の栽培展示PRや市内「朝市・青空市」での「なごやさい」販売のほか、都心でのマルシェイベント開催など、地産地消を推進しています。

愛知県 知立市

PROFILE 総人口：72,557人 農家戸数：330戸
総面積：16.31km² 農地面積：374ha
主な農産物：米、麦、大豆

▶自治体の取組

- 畑 de 学校(小中学生対象)
土に触れ、野菜が育つ過程を観る、調理する等、みんなで協力しながら様々な体験を通し、「農」や「食」に関心をもつきっかけを作ります。運営はNPO法人かきつ畑♪。
- 体験型農園「体験農村かきつ畑♪」
農は人を作り、そして仲間を作る。参加者が各自の区画で野菜をつくり、収穫を楽しむだけでなく、参加者同士の交流を広げています。

奈良県 奈良市

PROFILE 総人口：346,490人 農家戸数：2,713戸
総面積：276.94km² 農地面積：2,510ha
主な農産物：米、茶、野菜類

▶自治体の取組

- 地産地消 PR
地産地消を推進するためのショート動画シリーズ「おいしいぞ、奈良。」を公開しています。動画の中では大和野菜などを使ったレシピを紹介しています。ぜひご覧ください!
- ふれあい交流ファーム(市営市民農園)
奈良市の東部地域に「ふれあい交流ファーム」を開設しています。利用者や農業者との交流や、農業へ興味を持っていただく場として多くの方に利用していただいております!

広島県 広島市

PROFILE 総人口：1,170,275人 農家戸数：5,189戸
総面積：906.69km² 農地面積：3,268ha
主な農産物：こまつな、サラダみずな、しゅんぎく、ほうれんそう、パセリ、青ねぎ、広島菜

▶自治体の取組

- “ひろしまそだち”地産地消推進事業
市内の農林漁業者が生産した農水産物等のシンボルマークとして、“ひろしまそだち”マークを表示し、「市内産・新鮮・安心」な農水産物のブランド化に努めています。
- 広島市農業振興センター農業研修
定年後のセカンドライフとしての就農・帰農や半農半Xでの就農による出荷農家を育成するため、1年間の研修を行うとともに、農地の確保などの就農支援を行います。

京都府 京都市

PROFILE 総人口：1,433,782人 農家戸数：6,850戸
総面積：827.83km² 農地面積：2,975.8ha
主な農産物：九条ネギ、ナス、トマト

▶自治体の取組

- KYOTO Agri-Business Café
「新しい農業のカタチを考えるビジネス交流会」と題して、業種・分野を超えた幅広い主体が集まり、新たな農業関連ビジネスを生み出すプラットフォーム「KYOTO Agri-Business Café」を創設しています。
- 京の伝統野菜の振興について
明治以前で受け継がれてきた京の伝統野菜の需要拡大を図るとともに、衰退や絶滅の危機にさらされるものは、その種子と栽培方法を保存する取組を行っています。

大阪府 大阪市

PROFILE 総人口：2,794,598人 農家戸数：863戸
総面積：225.34km² 農地面積：73.01ha
主な農産物：大阪市なにわの伝統野菜、軟弱野菜

▶自治体の取組

- 大阪市都市農業等振興事業
市内産農水産物の魅力発信や振興を目的に、プロモーション動画の制作や啓発イベントを実施しています。
- 大阪市内産イタリア野菜
本市では、飲食店が密集し消費地に近い特色を活かし、市内産イタリア野菜の生産促進・普及活動に取り組んでいます。

高知県 高知市

PROFILE 総人口：312,105人 農家戸数：1,332戸
総面積：309km² 農地面積：2,350ha
主な農産物：ピーマン、生姜、キュウリ

▶自治体の取組

- 有機市民農園
有機農業の普及及び地域間交流の促進、耕作放棄地の有効活用を目的とした、有機市民農園の貸出を行っております。貸出可能な48区画は常に満員状態です。
- 農業体験学習事業
有志の幼稚園や小学校に対し、田植えや稲刈り、苜蓿や野菜の栽培、酪農体験等の農業体験学習を実施し、農業を通じた食育推進を図っております。

福岡県 福岡市

PROFILE 総人口：1,658,999人 農家戸数：1,797戸
総面積：343.47km² 農地面積：2,316ha
主な農産物：大根、とまと、いちご(あまおう)

▶自治体の取組

- 料理人向け 農産物産地見学ツアー
発信力のある飲食店やホテルの料理人などを農産物産地にお招きし、その様子を情報誌等に掲載することで、市内産農産物の認知度拡大や、利用促進を目指しています。
- 学校給食を通じた 地産地消の推進
魅力ある市内産農水産物を学校給食に提供することで、将来に向けた地産地消を推進しています。

*各自治体のプロフィール等は、フェスティバル当日に会場へ設置した参加自治体PRパネルを再構成しています。

全国都市農業フェスティバル これまでの歩み



●2019



●2023



●2025



令和5年度(2023)

▶全国都市農業フェスティバル 開催

【日 時】令和5年11月19日(日)10:00~16:00

【場 所】都立光が丘公園、区立光が丘体育館ほか

世界都市農業サミットで確認した“都市農業の魅力と可能性”を全国の自治体と一体となって発信し、相互に学び合い、都市農業を更に飛躍させる契機とするため、開催しました。

全国から24自治体が参加し、「買う」・「食べる」・「体験する」・「話す・学ぶ」をテーマとした国内最大級のイベントには、区内外から36,000人が来場しました。



●令和元年度(2019)

世界都市農業サミット

令和元年11月19日から12月1日にかけて、練馬区初の国際会議「世界都市農業サミット」を開催しました。

サミットでは、都市農業に積極的に取り組む世界5都市(ニューヨーク、ロンドン、ジャカルタ、ソウル、トロント)から農業者や研究者、行政担当者を招き、活発な議論を行いました。最終日には、「世界都市農業サミット宣言」を発表し、都市農業の意義と可能性を確認しました。

参加都市から「練馬の都市農業は言わば我々が目指すべきモデル」とコメントをいただきました。



令和6年度(2024)

▶全国都市農業フェスティバル2025 プレイベント 開催

【日 時】令和6年11月16日(土)・17日(日)10:00~16:00

【場 所】都立光が丘公園

全国都市農業フェスティバル2025の開催に向けた機運を醸成するため、プレイベントを開催しました。全国から9自治体が参加し、農作物の販売やPRを行い、2日間で63,000人が来場しました。



令和7年度(2025)

▶全国都市農業フェスティバル2025 開催

【日 時】令和7年11月15日(土)・16日(日)10:00~16:00

【場 所】都立光が丘公園、区立光が丘体育館ほか

令和5年度に開催した全国都市農業フェスティバルの成功をもとに、更なる都市農業振興を図るため、「全国都市農業フェスティバル2025」を開催しました。前回フェスティバルから開催日数を2日間へ拡大し、全国から32自治体が参加。2日間で区内外から75,000人が来場しました。

2023

- ✓ 24自治体が参加
- ✓ 36,000人が来場
- ✓ 来場者の約80%が
とても満足・満足と回答

2025 /

- ✓ 2日間の開催
- ✓ 32自治体が参加
- ✓ 75,000人が来場
- ✓ 来場者の約96%が
とても満足・満足と回答

初参加
13自治体

買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

委員名簿

順不同・敬称略・令和8年1月現在

(1) 全国都市農業フェスティバル 実行委員会

役職	氏名	所属団体等	所属団体役職等
会長	前川 耀男	練馬区	区長
副会長	宮下 泰昌	練馬区	副区長
委員	野崎 啓太郎	東京都農業協同組合中央会	代表理事会長
	久保 秀一	東京あおば農業協同組合	代表理事組合長
	尾崎 賀一	練馬区農業委員会	会長
	井口 薫	練馬産業連合会 東京商工会議所 練馬支部	会長
	菊池 雄一	練馬東法人会	会長
	高橋 利充	練馬西法人会	会長
	浅沼 敏幸	練馬区町会連合会	会長
	望月 一彦	国土交通省	都市局 公園緑地・景観課 緑地環境室長
	永濱 享	農林水産省	農村振興局 農村政策部 農村計画課 都市農業室長
	榎園 弘	東京都	産業労働局 農林水産部長
監事	江村 健二	練馬区商店街連合会	会長
	鳥井 一弥	練馬区	会計管理室長

(2) 全国都市農業フェスティバル 実行委員会実務検討部会

役職	氏名	所属団体等	所属団体役職等
部会長	田中 甫	東京あおば農業協同組合	石神井地区青壮年部 (農業者)
副部会長	小澤 俊明	東京あおば農業協同組合	練馬地区青壮年部 (農業者)
	村田 光生	東京あおば農業協同組合	大泉地区青壮年部 (農業者)
部会員	洒井 雅博	全国農協青年組織協議会	参与 (農業者)
	渡戸 秀行	東京あおば農業協同組合	練馬地区青壮年部 (農業者)
	加藤 優子	東京あおば農業協同組合	大泉地区女性部 (農業者)
	本橋 正輝	東京あおば農業協同組合	地域振興部農業振興課長
	田中 静雄	練馬産業連合会	事務局長
	長濱 正史	東京商工会議所 練馬支部	事務局長
	金子 明	練馬東法人会	事務局長
	高橋 信行	練馬西法人会	事務局長
	大塚 英男	練馬区商店街連合会	事務局長
	吉田 法仁	一般社団法人 練馬区産業振興公社	ねりま観光センター センター長
オブザーバー	今西 和貴	西武鉄道株式会社	沿線価値創造本部 事業創造部 沿線価値深耕担当 課長

買う

食べる

体験する

話す・学ぶ

意見交換会

広報

巻末資料

主 催 全国都市農業フェスティバル実行委員会／練馬区

後 援 東京都農業協同組合中央会／東京あおば農業協同組合／練馬区農業委員会／
(一社)練馬区産業振興公社／(一社)練馬産業連合会／
東京商工会議所練馬支部／(公社)練馬東法人会／(公社)練馬西法人会／
練馬区町会連合会／練馬区商店街連合会／国土交通省／農林水産省／
東京都／都市農地保全推進自治体協議会／練馬区議会

協 力 ホテルカデンツァ東京／西武鉄道(株)／
光が丘IMA(株)新都市ライフホールディングス／(福)あかねの会

ご寄付いただいた皆さま

高石 晟文 様、坂本 克久 様、二瓶 萌花 様、宇佐美 友理 様、
阿部 美春 様、宇津野 萌 様、中村 要介 様

※匿名希望の方のお名前は掲載しておりません。

発行日 令和8(2026)年3月

発 行 全国都市農業フェスティバル実行委員会(練馬区都市農業担当部都市農業課)
〒176-0012 東京都練馬区豊玉北六丁目3番1号
電話03-3993-1111(代表)

▶本記録集は、練馬区公式ホームページにも掲載しています。
また、全国都市農業フェスティバル2025の様子は動画でも
ご覧いただけます。

